

和光市デジタルミュージアム紀要

第6号



目次

<論稿>

和光市における移動図書館の歩み

—インタビュー調査中間報告—

中岡貴裕・石川敬史 p 1

<資料紹介>

老母稻荷社について

安井 翠 p 13

<実績報告>

令和元（平成31）年度 和光市埋蔵文化財調査年報

江口やよい p 33

<資料紹介>

長嶋酒造について

矢崎康彦 p 51(26)



2020.3

和光市教育委員会

序文

和光市では郷土にゆかりのある貴重な文化財などを後世に伝え活用するために、これまで多くの方々から資料をご提供いただき、文化財保存庫に収蔵してまいりました。これらの収蔵物等を広く市民の皆様方にご紹介し、本市の歴史や文化をご理解いただくため、平成 24 年 4 月 1 日から Web 上で「和光市デジタルミュージアム『れきたま』」の配信を開始しました。配信開始以来、年間約 20,000 件の閲覧をしていただいております。そして、『れきたま』の充実をさらに図るべく、和光市文化財保護行政の 1 年間の成果を取りまとめた「和光市デジタルミュージアム紀要」を創刊し、併せて Web 上での公開をしてから今年度で第 6 号となりました。

今回、和光市職員中岡貴裕氏と十文字学園女子大学の石川敬史氏から「和光市における移動図書館の歩み - インタビュー調査中間報告 - 」と題した貴重な成果をお寄せいただきました。また、和光市文化財保護委員の矢崎康彦氏からは、平成 26 年白子小学校に寄贈された資料の中から長嶋醸造日誌をまとめた成果をいただき、紀要内容の充実にご協力を賜りました。

さらに、お役目を終えることとなった老母稻荷社についての資料紹介や令和元（平成 31）年度の埋蔵文化財調査年報も併せて掲載いたしております。

有形・無形文化財、民俗的文化財など先人の残した文化財は、本市の貴重な財産であり、後世に残していく責任があります。また、このような文化財の蓄積は、当市の歴史や文化財を学び理解していただく上で有効なものであると考えています。

最後になりましたが、本紀要の刊行にあたりまして日ごろからご指導いただいております埼玉県教育局市町村支援部文化資源課、和光市文化財保護委員会委員各位、また、公私ともご多用の中、たくさんのご教示・ご高配を賜りました関係者の皆様にご心より厚く御礼申し上げます、あいさついたします。

令和 2 年 3 月
和光市教育委員会
教育長 大久保昭男

和光市における移動図書館の歩み

—インタビュー調査中間報告—

中岡 貴裕・石川 敬史

1. 研究の視角と目的

移動図書館とは、「公共図書館が図書館を利用しにくい地域の住民に対して、何らかの移動手段を用いて図書館資料を運び、図書館員による図書館サービスを提供する方式」¹である。最も代表的な移動手段はトラックやバスを改造し書架やスピーカーを装備した自動車であり、日本図書館協会による『日本の図書館：統計と名簿』によると2018年に全国で538台の図書館車²が地域を走っている。本稿における移動図書館とは、こうした自動車による移動手段を用いた活動を指すこととする。

日本における移動図書館の先駆けは、1949年9月に巡回を開始した千葉県立中央図書館の「訪問図書館ひかり」³であった。さらには、移動図書館「ひまわり号」1台から図書館を「開館」（1965年9月）し、当時の公共図書館を大きく変革させた日野市立図書館の活動⁴も全国各地の図書館に大きな影響を及ぼした。こうした自動車には、個人貸出や書架の公開（千葉県）、全域サービスや貸出、児童サービスの重視（日野市）など、当時の図書館の目指す姿が体现されていた。これまでの移動図書館の台数をみていくと、1997年の697台をピークに増加していたが、以後減少が続いていく⁵。しかし、東日本大震災（2011年3月）以降、移動図書館は再評価される傾向にあり⁶、台数の減少は比較的緩やかになっている。

他方で、近年、日本の戦後史・地域史研究において、地域に暮らし関係性を育む人々の経験に焦点をあて、戦後日本の地域社会形成過程を考察する研究がみられる。例えば、鬼嶋淳は埼玉県の入間地域を中心に、戦後地域社会の形成

を対抗関係の変化を軸にして詳細に検証している⁷。森武磨らは、1950年代における都市と農村の重層的関係、さらには共同性と協同性に着目しながら、神奈川県小田原地域を中心に地域社会の再編を検討している⁸。これらの研究は、激動の戦後地域社会を動的にとらえる視角によって考察されている⁹。

これに加えて、大門正克は、地域に暮らす人々が生きるための関係性を矛盾や葛藤の中でどのように創り出したのか、という「生存」や「生きること」に着目している¹⁰。大門は「生存することは人と人のつながりのなかにあるのであり、生存すること自体のなかに他者に働きかけるきっかけが含まれている」¹¹とし、人々が生きる地域社会の重層的な相互関係を指摘している。

本研究で対象とする埼玉県和光市は東京都練馬区と板橋区に接する埼玉県南部に位置し、都内への交通アクセスも非常に良い。30－40歳代の人口が最も多く、現在も和光市の人口は増加し続けている¹²。和光市の歴史を遡ると、1952年には本田技研工業株式会社の大規模工場をはじめとする工場の進出、さらに1965年以降は西大和団地や諏訪原団地など大規模な公団住宅が建設され、統計上の夜間人口が増加するとともに、転入者と転出者の増加という人口流動の激化も顕著になった¹³。1970年に大和町から和光市へ市制が施行した後も人口が増加し続け、小中学校の増設も進められていく。

しかしながらその間、教育費に占める社会教育費はわずかであったという¹⁴。例えば公民館については、1953年に大和町公民館の設置以降、1961年の白子分館、1962年の新倉、吹上、牛房の各公民館の設置と続いていくが、図書館

をみていくと、建物の図書館の開館ではなく、1973年の移動図書館「やまびこ号」の開館から始まる。和光市における図書館は公民館の図書室に限られていたが、地域住民の「和光市に移動図書館をつくる会」による運動・請願を背景に「やまびこ号」1台から図書館が開館した歴史があった¹⁵。

本研究では、戦後期に地域社会が大きく変動し、かつ地域住民の運動・請願によって1台の移動図書館から開館したという特徴を有する和光市を対象に、当時、移動図書館の巡回を担った図書館員、さらには移動図書館を要望し、移動図書館活動を支えた地域住民らが、移動図書館に何を求め、何を期待していたのかを検討する。本稿では、こうした研究の中間報告と位置づけ、当時「やまびこ号」の巡回を担っていたかつての図書館員の方々を対象としたインタビュー調査¹⁶にもとづき、当時の資料を用いながら和光市における「やまびこ号」の歩みを実証的に検討する。こうした検討は、移動図書館を媒介に、戦後地域社会における人と人との相互関係や共同性の考察に結びつけることができるとともに、移動図書館に対する運動と実際の巡回が戦後の地域社会の形成においてどのような位置を有していたのかを明らかにすることができる。

2. 「やまびこ号」の歩み

2.1 インタビュー調査

和光市における移動図書館「やまびこ号」の歴史を実証的に検証していくにあたり、資料の収集・検討とともに、実際に「やまびこ号」に関わってきた人々へのインタビュー調査は重要である。本稿では、2019年に実施したインタビュー調査のうち和光市の元図書館職員（2名）によるインタビュー調査を対象に、収集した資料も踏まえながら「やまびこ号」の歩みを中間的に報告する¹⁷。なお、2名へのインタビュー項目はそれぞれ個別に設定したが、本稿で掲載

したインタビュー記録については、内容を整理・抜粋するとともに、年表記は西暦で統一した。なお、インタビュー記録の詳細は、今後、本研究の報告書としてまとめる予定である。

本稿が対象とするインタビューの日時や対象者、略歴については、次のとおりである。

(1) 柳下昇氏インタビュー

日時：2019年2月4日（10：00－12：00）

場所：和光市図書館会議室

柳下氏は「やまびこ号」が巡回を開始した翌年度（1974年4月）に和光市職員となり、和光市中央公民館図書室に配属。「やまびこ号」の運転業務等も担当した。その後、社会教育課や総務課など市役所内の異動を経て、和光市図書館長、再任用職員として図書館業務に携わった。

(2) 海老原伸子氏インタビュー

日時：2019年8月4日（13：00－15：00）

場所：アルコイリス（和光市内）

オブザーバー同席：茂呂あかね氏（和光市教育委員会）

海老原氏は1973年8月に和光市職員となり、和光市中央公民館図書室に配属され約10年勤務。司書の有資格者。以後、和光市図書館が開館（1983年8月）した後は同館において約10年。通算約20年間図書館業務に携わった。

2.2 「やまびこ号」前史

和光市の移動図書館「やまびこ号」の開館式は1973年12月17日に行われ、翌18日から市内の巡回を開始した。「やまびこ号」が巡回を開始した当時、和光市には図書館は存在せず、その機能は中央公民館の図書室が果たしていた。

中央公民館図書室の開館は、市制以前の大和町（現・和光市）であった1962年8月23日にさかのぼる。大和町の中央公民館図書室については、当時の大和町の広報誌『広報やまと』において、「あなたの家庭の書斎のように公民館の図書室を、どうぞどしどしご利用ください」¹⁸と触れられているように、小規模ではあるが少

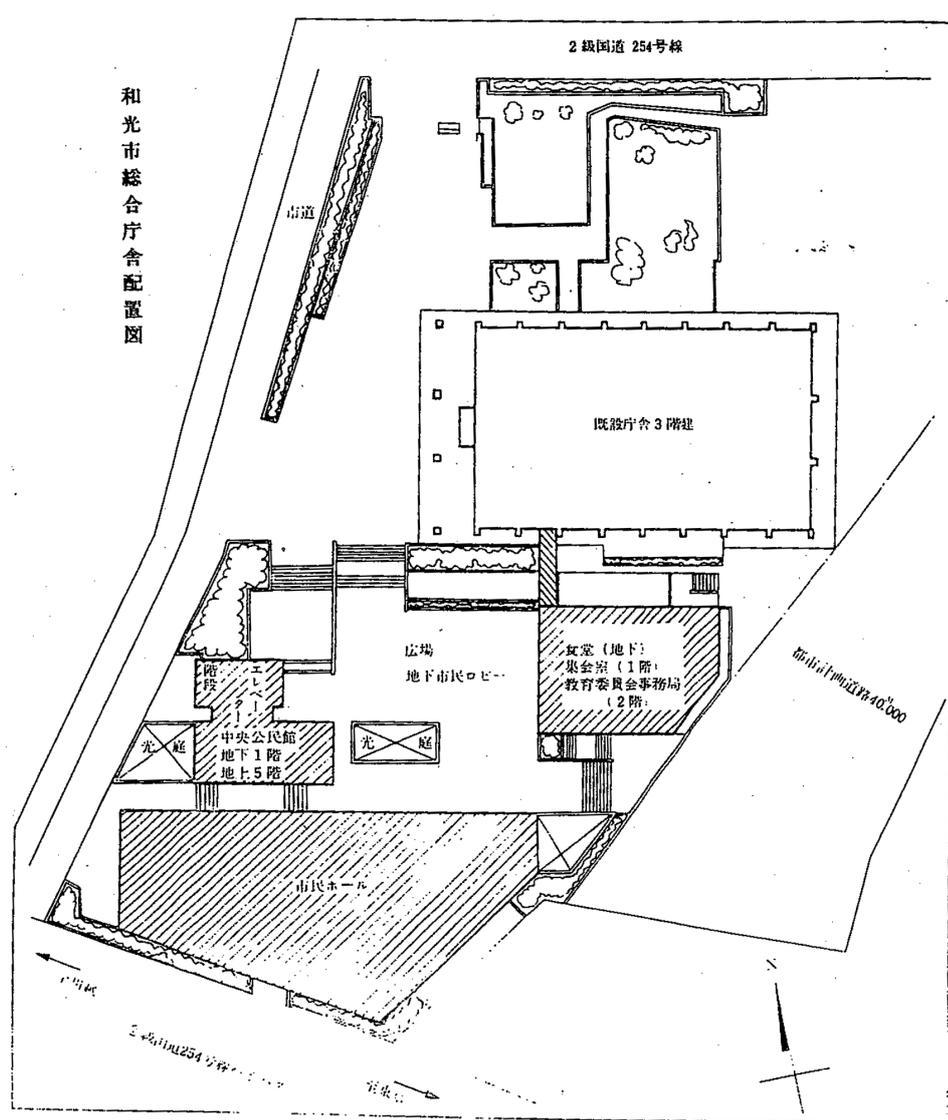


図1 和光市総合庁舎配置図
 (『広報わこう』13号 1971年5月1日 p2より転載)

しずつ図書館としての歩みを進めていた。

その後、中央公民館は新たに建設される総合庁舎内に移転するため、1970年12月26日をもっていったん休止し、総合庁舎に移転した1971年6月1日から活動を再開した(図1、図2)¹⁹。中央公民館の新たな図書室は3階に設置され、24の閲覧席、閉架書庫を含め約5,000冊が収容できる規模の図書室であった。1983年8月に現在の和光市図書館が開館するまでの間、この中央公民館図書室は和光市の図書館機能を担っていた。

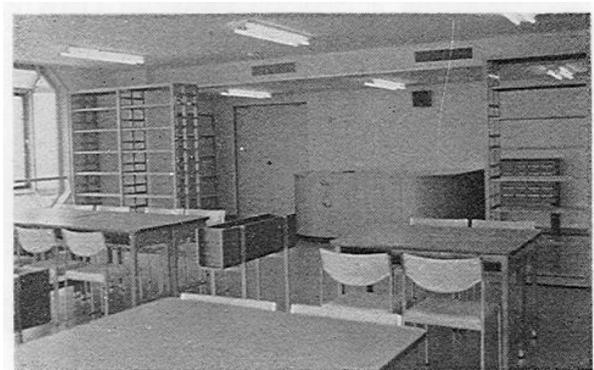


図2 和光市総合庁舎内の中央公民館図書室
 (『広報わこう』13号 1971年5月1日 p6より転載)

2.3 「やまびこ号」と請願活動

総合庁舎に中央公民館図書室が移設されたものの、和光市には図書館は存在しない状況が続いた。こうした中で、1972年11月末に市民が主体となって「和光市に移動図書館をつくる会」が発足した²⁰。同会は「身近なところに本があり、市民のだれもが平等に、より多くの図書を利用できるように」という願いを込めて請願署名運動に取り組み、「市内15ヶ所に図書館バスを走らせましょう」というチラシ(図3)²¹も作成された。そして、同年12月9日に市議会に対して3,513名の署名を添えて請願を提出した。このように、和光市の市民による移動図書館を求める請願活動は、「やまびこ号」の歴史において重要な出来事であったことがわかる。

海老原：県立の一日図書館「むさしの号」²²がまずあって、そこから請願活動が始まったんでしょね。あの頃の市民運動はすごかったですよ。

茂呂：時代もあったんでしょ？和光市に限らず。

海老原：ええ、そういう時代でしたね。

中岡：請願活動をされていたのは団地に住んでいる方で熱心な方がいたと聞いています。その方が中心でしょうか？

海老原：そうですね。熱心にいろいろなことをやっていました。諏訪原団地の家庭文庫とかやっていたらしてね。

中岡：請願の代表者としてお名前を目にしました。あとはご本人が文章を書かれているんです。

石川：この『月刊社会教育』の記事²³ですね。

海老原：そうなんだ。すごいですね。当時、職員で中央公民館の社会教育主事の方がいらしたんですが、おそらくその方と一緒にいろいろ活動されていたのではないかと想像はできますね。

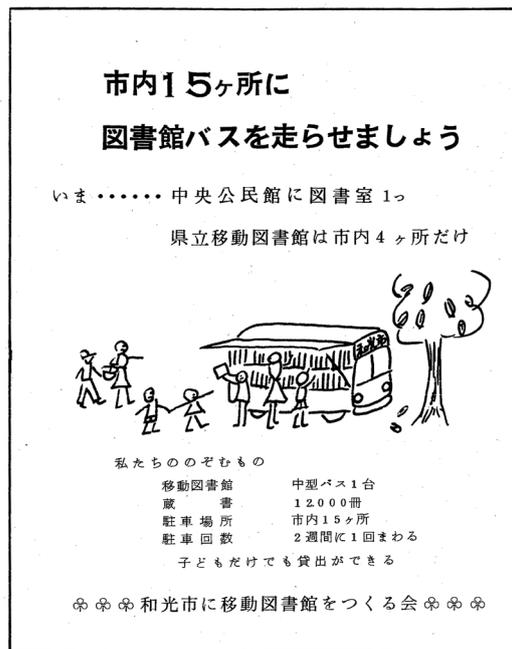


図3 和光市に移動図書館をつくる会によるチラシ
(『くらしのなかに図書館を 一埼玉県立公立図書館白書 1973—』p14より転載)

2.4 名称とテーマソング

請願が市議会に提出され、それを受けて和光市は移動図書館をつくることとなった。1973年8月15日の『広報わこう』には車名とテーマソングを公募する記事があり、移動図書館開館に向けた準備が進められていることがわかる。続く同年11月15日の『広報わこう』には車名が「やまびこ」、テーマソングを「手のひらを太陽に」とすること、ステーション²⁴は14ヶ所になることが報告されている。ここでは「やまびこ」という命名の由来について、「この移動図書館の活動が、明るい太陽のもとに、やまびこのように地域のすみずみまでこだましあい、市民のみなさんの読書活動が活発に進展し、創造的でゆたかな文化都市の建設に寄与することを期待して命名されました」と記されている。

茂呂：移動図書館のステーションは何か所でしたか？

海老原：最初は14か所でしたね。

中岡：諏訪原団地へは県立の一日図書館がいっ

ていましたね。

茂呂：一日仕事だったのでしょうか？

海老原：県立図書館は一日仕事です。「やまびこ号」は半日仕事です。午後に2ヶ所いきます。

茂呂：音楽（テーマソング「手のひらを太陽に」）をかけて出かけていたのですか？

海老原：そうです。ステーションの近くに行くとテープをかけます。

石川：音楽は公募だったのですか？「やまびこ号」という名称も？

海老原：当時の広報で募集していましたね。

中岡：テーマソングの「手のひらを太陽に」というのは、歌詞付きのメロディーを流していたのでしょうか？

海老原：いやいや、歌詞はつかないですね。カセットテープで歌詞がつかないものです。

中岡：巡回をはじめてからずっと同じ曲ですね。

海老原：そうです。「やまびこ号」の名前の由来は、坂が多いから「やまびこ号」になったという気はします。

中岡：当時の広報誌で「やまびこ号」の名前などが決まった時の記事があるのですが、どのように決まったのかは書かれていないですね……。

茂呂：両方とも公募したのでしょうか？

海老原：両方とも公募でしたね。そういうやり方も、公民館職員で経験のある方のアイデアだったのではないかと思いますね。最初から市民と一緒にやっていくというやり方です。



図4 やまびこ号外観

(『埼玉の移動図書館 1977』 p28 より転載)



図6 やまびこ号巡回開始を伝える『広報わこう』(1)
(『広報わこう』78号 1974年1月15日 p1より転載)



図5 やまびこ号開館式の様子を伝える『広報わこう』
(『広報わこう』77号 1974年1月1日 p5より転載)



図7 やまびこ号巡回開始を伝える『広報わこう』(2)
(『広報わこう』78号 1974年1月15日 p2より転載)

2.5 やまびこ号の製作と巡回開始

「やまびこ号」は、株式会社林田製作所（大宮市：現・さいたま市）において製作された。車両は日産のシビリアン（マイクロバス改造）、書架装備を内外にもち、積載図書数は2,200冊という記録がある²⁵。完成した「やまびこ号」（図4）は、1973年12月17日に開館式が行われ（図5）、翌18日から市内の巡回を開始した（図6、図7）。「やまびこ号」の利用資格は市内在住・在勤者であり、利用冊数は1人3冊まで、貸出期間は次回の巡回日までの2週間とされた²⁶。

中岡：海老原さんが採用された頃（1973年8月）は、まだ移動図書館の本体はできていなかったですよ？

海老原：本体はできていなかったと思います。購入の予算はついていて、ニッサンシビリアンを改造すればよかったです、意外と早くできました。1973年12月には巡回していました。

石川：ちょうど自動車納品された頃についてのご記憶はありますか？

海老原：新車が納品されました。駐車場がないから市役所の玄関のところにとまりました。前の市役所の正面玄関はいるとすぐ噴水がありました。その玄関のすぐ外に停まっていたので、市民の目に一番とまるから、PRにもなりました。

茂呂：その後も、「やまびこ号」は普段からそこに停まっていたんですか？

海老原：ずっと停まっていました。

石川：屋根はないところでしょうか？

海老原：そこには屋根というか市役所の玄関先なので屋根のようなものはありました。住宅公団の大きな団地ができて、そこに新しい住民がどんどん入ってきて、社会教育的な活動が爆発的に進んでいきました。そのときの市長が柳下市長で、福祉と教育に力を入れるんだといっていました。

2.6 職員の体制と「やまびこ号」の巡回

和光市内を巡回する移動図書館「やまびこ号」は、中央公民館図書室の職員によって運営されていた。1983年に和光市図書館が開館するまでの中央公民館図書室の職員体制は、基本的に3人であった。「やまびこ号」の巡回にあたっては2名の職員が担当していたという。

海老原：移動図書館が開始するということで、私が1973年8月に職員に採用された時は、中央公民館図書室の職員は1人いました。あとパートの方が1人です。1974年1月に運転のために職員1人が新規採用されました。1月からは職員3人体制で、パートの方は辞めました。その後は職員3人体制で図書館が開館するまで、ずっとやってきました。以前からいた経験のある職員の方も途中で退職したり、他の職員2人も異動で何人かは変わりましたが、私はずっと、公民館図書室と移動図書館の業務を行ってきました。

石川：ずっと3名の方で、運転する方と同乗する方という体制で運営していたのですよね。

海老原：そうですね。3人体制で運営していました。中央公民館図書室と移動図書館をね。

中岡：やまびこ号は、普通免許で運転できたんですよ？

石川：でも、普通免許で運転しろと言われてもなかなか難しいですよ？

柳下：慣れるまで先輩に教わりながらね。

中岡：マニュアル車ですよ？

柳下：そうです。

石川：車は大きいですしね。ちょっと運転してといわれても抵抗感がありますよね……。

柳下：だから、道路の左側に白い線が引いてありますよね。あれが頼りです。こっちのミラーで白い線のギリギリのところを走って。でもバックが一番いやだったね。特に小学校なんかでバック帰るときはいやだったね。だれか

に後ろを見てもらわないと怖いよね。

中岡：ルートなどはどのようにして決めていましたか？

柳下：その日に行くステーションは決まっていたけど、ステーションに行くまでのルートは決まっていなかったですね。ステーションに行くまでに、「この辺ならこれくらいかな」という範囲のあたりで音楽を流して走行しながらステーションに到着するようにしていました。ステーションで広報するのではなく、到着するまでに広報するわけだから、たまにはこっちのほうに行ってみようかということもありました。

中岡：「やまびこ号」にはスピーカーがついていたのですか？

柳下：ついてました。

中岡：声でお知らせしたりとかもされたり？

柳下：「手のひらを太陽に」の音楽だけだと思います。

中岡：走行中ずっと流していたのですか？

柳下：ステーションの付近になってからだね。そうしないと、どこのエリアだかわからなくなってしまいうから。停まるエリアのあたりになってから流してましたね。走行中は大きい車だったから、狭い道に入ると屋根が引っ張っていたり看板が引っ張っていたりするから、注意してましたね。

2.7 ステーションと世話人

「やまびこ号」のステーションは、当初 14ヶ所が設定された（図8）。その後、埼玉県立図書館による一日図書館「むさしの号」による巡回の終了や、和光市内に新たな公民館図書室が開設する中で、「やまびこ号」のステーションは、場所を変えながら巡回することとなる（図9）。

加えて「やまびこ号」は、ステーションごとに「世話人」と称する市民の方々によって支えられていた。この世話人は、「やまびこ号」巡回当日に貸出や返却等の作業を担うため、和光市教育委員会からステーションごとに1～4人委

移動図書館駐車場

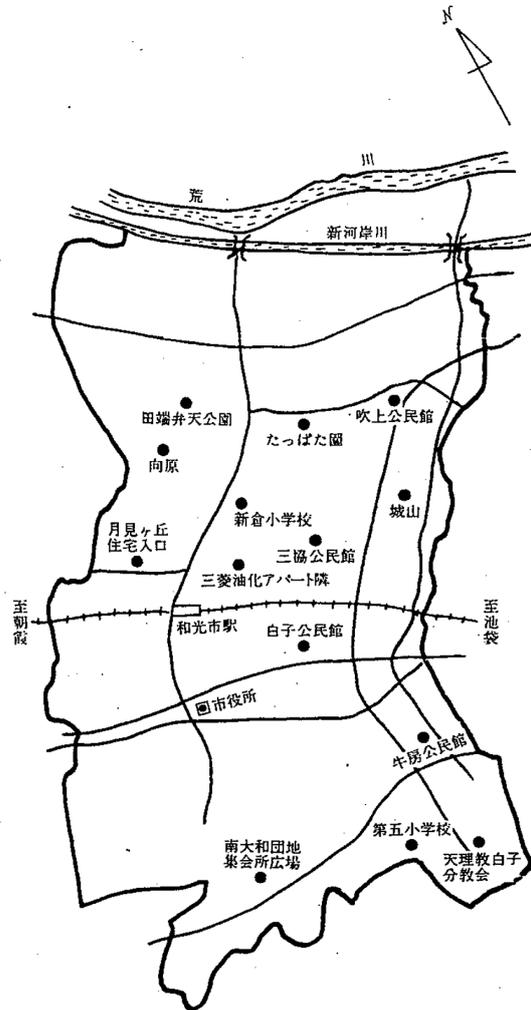


図8 巡回開始当初の「やまびこ号」駐車場位置図
（『広報わこう』78号 1974年1月15日 p3より転載）

嘱された²⁷。

中岡：地域の世話人の方はどのような活動をされていましたか？

柳下：貸出、返却ですね。とにかく手作業だから。

石川：世話人の方はどのように選ばれていたのでしょうか？地元の自治会などから選ばれたりなど？

柳下：地元の顔が見える人でしたね。どのように選ばれたのかはわからないけど。みんな良い方々でしたね。

石川：ステーションに「やまびこ号」が行くと世話人の方がそこにいるわけですか。

柳下：そこで待っていてくれましたね。

石川：机を出してくれるなど……。

柳下：そうそう。それでその人たちと世間話とか、井戸端会議みたいなお話をしながら楽しくやりましたね。

石川：貸出が相当な量になると、人が殺到するので、大変だったのでは……。

柳下：そう、ごちゃごちゃしてね。子ども向けの本は車内で、全員が中に入れないので「並んでー」といったりとか、そういう人の整理になんかは自分たちがしたりとかしました。

石川：ステーションで手伝ってくれる方は毎回同じ方でしたか？

海老原：同じ方でしたね。

石川：広報にお名前が載っていましたね。

海老原：自治会に頼んだのか手を挙げてもらったのか、どうやって決まったのかはちょっと記憶にはないのだけど……。地域と一緒にやっていくというのは良いですね。とても良いやり方だったと思います。

……（略）……

茂呂：時間になると世話人の方々は現地で待っているのですか？

海老原：そうです。貸出なんかもやっていただいて。職員は見ているだけだったり（笑）。その方々が地域の子どもたちに声をかけたり、本を探すのを手伝ったりして。

茂呂：地域の方がそれだけ熱心なんですよ。

中岡：広報によると、世話人の方は数年後に代わったりされてますね。

海老原：そうでしたね。それで人数も変わっていったと思います。

石川：世話人同士でほかの地域の方との交流などはありましたか？

海老原：それは無かったと思いますね。

石川：行ってみたらステーションにいなかった……。なんてことは無かったですか（笑）。

海老原：それは無かったですね。でも、和光市図書館ができるころになると、「やまびこ号」の世話人の方はいなくなっていったような気がします。

石川：こういう制度を考えたのも、先ほどの経験のある職員の方でしょうか？

海老原：おそらく。そうだったのではないかと思います。市民と一緒にやっていくというね。そういう時代でしたね。

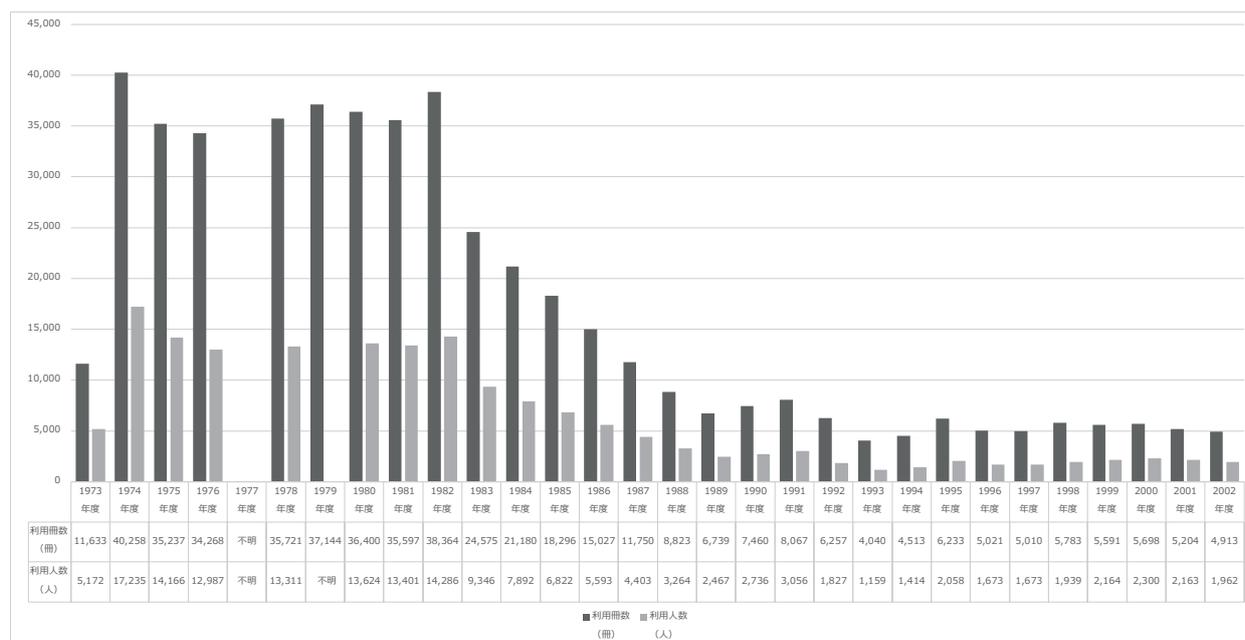


図 10 移動図書館「やまびこ号」利用推移

※『和光の教育』の各年度、『埼玉の移動図書館 1977』、『埼玉の移動図書館 25 周年記念号』、『埼玉の移動図書館 1981』による。

2.8 移動図書館の利用者

「やまびこ号」の利用者数は図 10 にまとめたとおりである。なお、1977 年度の統計は現時点で確認が取れていないため空白としている。確認できる記録の限りでは、開始翌年度にあたる 1974 年度に利用冊数、利用人数ともに最高値を記録している。その後、おおむね順調に推移するものの、1983 年度から急激に利用者、貸出冊数ともに減少していく。この減少の理由にはさまざまな要因が考えられるが、一つには 1983 年 8 月に和光市図書館が開館したことが影響しているといえる。

中岡：ステーションごとによく来る利用者さんの記憶などありますか？ 利用者さんと良くしゃべったり……。

柳下：話した記憶はあるよね。いろんな人が来てました。

石川：全体的には子どもたちが多い印象ですか？

柳下：そうですね。小学生ですね。

石川：大人の方の利用となりますと、女性が多いでしょうか？

柳下：そうでしたね。小さい子と一緒に乳母車とか、子どもを抱いてきている人もいたし。団地に行くと主婦が多かったです。

石川：ステーションによって、子どもが少ないとか、ご高齢の方が多いとか、男性の方が来ていたなどの印象はありますか？

柳下：男性は少なかったね……。

中岡：「やまびこ号」の利用者さんは、どのような方々だったのでしょうか？

海老原：利用者さんは、やっぱり子どもとお母さんですかね。午後、子どもが帰ってくるくらいの時間だから。

茂呂：あの頃は絵本ブームでしたよね。今でも読む子はもちろんいるけれど、あの頃はどんな子でも絵本を読んでいたような気がします。定番絵本ってあったじゃないですか。今

の定番絵本の出だしのころですよ。だからやっぱり盛り上がっていたのかなあ。

海老原：ええええ。盛り上がっていたよね。

石川：貸出方法はブラウン式？

海老原：そうです。ブラウン式。なつかしい言葉ね。ポケットにハンコを押して。

茂呂：それだとジャンジャンお客さんがきちゃうと……。

石川：最初は列になってしまいますよね。

海老原：一時間いるんだけど、20 分くらいで最初のお客さんは帰っちゃいますからね。どのくらい貸出があったかなあ。

石川：ステーションでは利用者登録などもできたのですか？

海老原：もちろんできます。借りる人は大人の方でも多い人はこんなにたくさん借りて。

石川：利用者さんはステーションまでは自転車などで来るのですか？それとも歩いて？

海老原：歩いての場合が多かったです。

石川：本を入れるカゴや袋などをお持ちになって……。

海老原：そうだったでしょうね。

…… (略) ……

中岡：利用者さんの変化などの実感はありますか？

海老原：最初はワーッと来るんです。非常に利用も多かったけど、だんだん少なくなっていった。いつごろからかだんだんとね。2 週間に 1 回しか来ないわけだから。

中岡：だんだん利用者さんは減っていったということですが、利用者さんの層というのはあまり変化がありませんでしたか？

海老原：あまり変わらなかったと思いますね。やっぱり小さい小学生ぐらいまでのお子さんと女性。

中岡：男性はなかなか時間的に借りられなかったということでしょうね。利用者さんは、借りにきてその場でずっと読んでいかれるということは無かったですか？

海老原：それはあまり無かったですね。基本的に貸し借りだから、終わったら帰ってしまうかな。

中岡：利用者さんとお話したりとかは？

海老原：それはありましたね。常連さんとかとお話したりね。

茂呂：「この本入りましたよ」とか？

海老原：そうですね。

中岡：当時の記録には紙芝居の貸出があったようなのですが、紙芝居を実演したりなどはされてましたか？

海老原：やった記憶はないですね。でも、紙芝居の枠はあったからやっていたこともあったのかな。ちょっと記憶はないけれども。

3. 和光市を走る「やまびこ号」

本稿では当時「やまびこ号」の巡回に携わった柳下氏と海老原氏へのインタビュー記録にもとづきながら、和光市の移動図書館「やまびこ号」の歴史について中間的な報告として整理した。これまでの調査により、多くの市民の要望によって移動図書館「やまびこ号」の巡回を開始するとともに、名称やテーマソング、ステーションの運営など、市民と行政・図書館員とがともに「やまびこ号」を創ったプロセスをみることができる。「やまびこ号」が、単なる図書館のサービスとして一方通行として地域を巡回していたのではなく、市民と共に活動しながら、市民生活の足下に巡回することで、地域全体で「やまびこ号」を受容していたことがうかがえる。

「やまびこ号」の調査研究については着手したばかりであるため、本稿によってみえてきた課題も多い。第一に、和光市における移動図書館請願活動を実証的に明らかにすることである。具体的には、建物の「図書館」とは異なり、「移動図書館」を求める市民の請願活動の目的や背景、さらには請願活動がどのように行われ、市内で移動図書館を求める機運が高まった過程な

どである。「やまびこ号」の出発点となった請願活動の実像を明らかにすることは、「やまびこ号」が目指した理念とともに、和光市において「図書館」がどのように期待されたのかを検討するうえで重要な意味を持つものといえよう。

第二に、和光市内における埼玉県立図書館による移動図書館「むさしの号」の巡回の歴史をたどることである。和光市では「やまびこ号」の巡回以前、1962年から「むさしの号」が巡回していた²⁸。特に一日図書館「むさしの号」が和光市の西大和団地において開館式が行われたこと²⁹を踏まえると、埼玉県立図書館による移動図書館「むさしの号」巡回の影響が大きかったことが推測できる。和光市内における「むさしの号」の巡回を明らかにすることは、市民が「図書館」に何を期待したのかを検討することに結びつけることができる。

第三に、ステーションの世話人をはじめ、移動図書館「やまびこ号」の巡回を支えた市民の存在である。とりわけ、和光市内には大規模団地が建設され、同時に市内に地域文庫や読書会活動が拡大した歴史もあった。当時のこうした読書活動の広がりや、公民館図書室や「やまびこ号」との関わりから、市民が「図書館」や「やまびこ号」に何を期待し、どのように支えていたのかを検討することができよう。

今後、「やまびこ号」に関わった方々へのインタビュー調査を進めていくとともに、行政文書をはじめとする資料調査を重ね、和光市の移動図書館「やまびこ号」の歩みを実証的に検討するとともに、移動図書館を媒介とした戦後地域社会形成を考察していきたい。

謝辞

「やまびこ号」に関するインタビューに快く応じてくださいました柳下昇様、海老原伸子様には深く御礼申し上げます。また、和光市教育委員会の茂呂あかね様、和光市図書館の小林理恵様、荒井京子様をはじめ皆様には、インタビュー

会場の提供や資料収集にご支援いただきましたこと、改めまして感謝いたします。

なお、本研究は十文字学園女子大学プロジェクト研究による成果の一部である。

【註】

1. 「移動図書館」『図書館情報学用語辞典』第4版、日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編著、丸善、2013、p.9.
2. 『日本の図書館：統計と名簿2018』日本図書館協会、2019。なお同書では「自動車図書館」の台数が集計されている。
3. 日本図書館研究会オーラルヒストリー研究グループ編著『文化の朝はひかりから：千葉県立中央図書館ひかり号研究』日本図書館研究会、2017.;石川敬史「移動図書館成立の序論的考察：1940年代後半から1950年代前半における活動名称を中心に」『筑波大学教育学系論集』44(1)、2019.10、p.91-103.
4. 前川恒雄『移動図書館ひまわり号』筑摩書房、1988.
5. 日本図書館協会による『日本の図書館』の各年度を参照。
6. 鎌倉幸子『走れ！移動図書館：本でよりそう復興支援』筑摩書房、2014（ちくまプリマー新書、208）；石川敬史「移動図書館の再発見」『図書館雑誌』109(7)、2015.7、p.426-428.
7. 鬼嶋淳『戦後日本の地域形成と社会運動：生活・医療・政治』日本経済評論社、2019.
8. 森武磨編著『1950年代と地域社会：神奈川県小田原地域を対象として』現代史料出版、2009.
9. 鬼嶋（前掲7）や森（前掲8）による地域史研究の課題整理が大いに参考になる。
10. 大門正克『『生存』の歴史学』『第四次現代歴史学の成果と課題：新自由主義時代の歴史学』1巻、歴史学研究会編、績文堂、2017、p.206-221.
11. 大門正克『戦争と戦後を生きる』小学館、2009、p.18。（日本の歴史一九三〇年代から一九五五年、15）
12. 和光市総務部情報推進課編『統計わこう』平成30年度版、和光市、2019.
13. 和光市編『和光市史』通史編下巻、和光市、1988、p.762-777。もちろんこの他に、アメリカ軍基地の返還運動や基地跡地の利用計画の検討もあった。
14. 同上、p.822-824.
15. 川久保武子「親子読書会から移動図書館請願運動へ」『月刊社会教育』17(4)、1973.4、p.81-86.
16. 大門正克『語る歴史、聞く歴史：オーラル・ヒストリーの現場から』岩波書店、2017。（岩波新書、1693）
17. 本研究においては、インタビュー調査の実施に先立ち、十文字学園女子大学研究倫理審査委員会に対し「人を対象とする研究倫理審査申請書」を提出し、承認を得ている。
18. 『広報やまと』85、1966年11月1日
19. 『広報わこう』13、1971年5月1日
20. 前掲15、川久保。以後、本節では同文献を参照した。
21. 埼玉県公共図書館協議会編『くらしの中に図書館を：埼玉県公立図書館白書1973』1974、p.13-14.
22. 1972年1月に巡回を開始した大型バスを改造した移動図書館。積載数4,500冊で、埼玉県内500戸以上の中高層集合団地を中心に巡回した。1974年4月には2号車を建造した。1987年3月に巡回終了。
23. 前掲15、川久保。
24. 移動図書館が巡回し停車する場所を一般的に「ステーション」もしくは「駐車場」ともいう。
25. 埼玉県移動図書館運営協議会編『埼玉の移動図書館1977：市町村移動図書館実態調査』1977、p.28-29。なお、「やまびこ号」は2003年に廃止されるまでの間、2回更新されており、開始から廃止までの間に3代（台）の「やまびこ号」が製作されている。
26. 『広報わこう』78、1974年1月15日.
27. 『広報わこう』89、1974年7月1日.
28. 埼玉県移動図書館運営協議会編『埼玉の移動図書館：30周年記念』1980.
29. 埼玉県立図書館編『一日図書館車：満三年のあゆみ』1975.
なかおか たかひろ（和光市）
いしかわ たかし（十文字学園女子大学）

老母稲荷社について

安井 翠

1. はじめに

和光市教育委員会は、和光市中央2丁目5番地付近の住宅敷地内で保管されていた「老母稲荷社」が廃祀される連絡を受け、聞き取り調査や実測調査を行った。その後、老母稲荷社を文化財資料として保存・活用できるかの協議を重ね、今回は記録保存という形で後世へ残すこととなった。

本稿は、老母稲荷社の経緯の聴取や実測、観察を行い記録化することが目的である。

なお、石造物に刻まれた文字の読み解きは和光市文化財保護委員の並木實氏にご協力をいただいた。

2. 老母稲荷社

まず、この稲荷社は、どういった社なのかを判断しようとしたが、祠の前に置かれた鳥居の額に陰刻された最初の2文字「□□稲荷社」(図11-1)を読み解くことができなかった。

調査を進めていくと、祠内にある木札裏面に「老母稲荷大明霊」の記述を見つけた(図14-2)。そのため、「老母稲荷社」と断定し呼ぶこととした(図11-2)。

この老母稲荷社は、明治16(1883)年5月田中八百蔵によって再建されたものである(図13)。元々、老母稲荷社は寛政元(1789)年に建てられ、西広沢原に位置していたが、明治14(1881)年都合により地主宅へ移されたことが鳥居額に刻まれている(図12-1、-2)。

明治時代における西広沢原の所在地は、土地名寄帳(新座郡下新倉村)によると西廣沢原4934-1(4反9畝11歩・林)、4934-2(29歩・宅地)とわかっている(図4)。

この広沢の地は享保年間(1716-1736)に開墾され、享保17(1732)年に検地が行われた。老母稲荷は、その57年後の寛政元(1789)年に建立されたこととなる。現在の県立和光国際

高校と西大和団地の通り市道476号(桃手通り)あたりに位置していたと推測される(図3)が、はっきりとしたことはわかっていない。その後何らかの都合により、西広沢から中央2丁目の地へと移った(図5)。

また、台座には、下新倉村以外の白子村や新倉村(広沢、原新田)、膝折村や溝沼村、田畷村など現在の朝霞市に当たる近隣地域の方の名前が見受けられる(図17・18・19)。幅広い地域の講員により祀られていたことが伺える。



図1 老母稲荷社鳥居



図2 老母稲荷社正面



図3 老母稲荷推定位置図

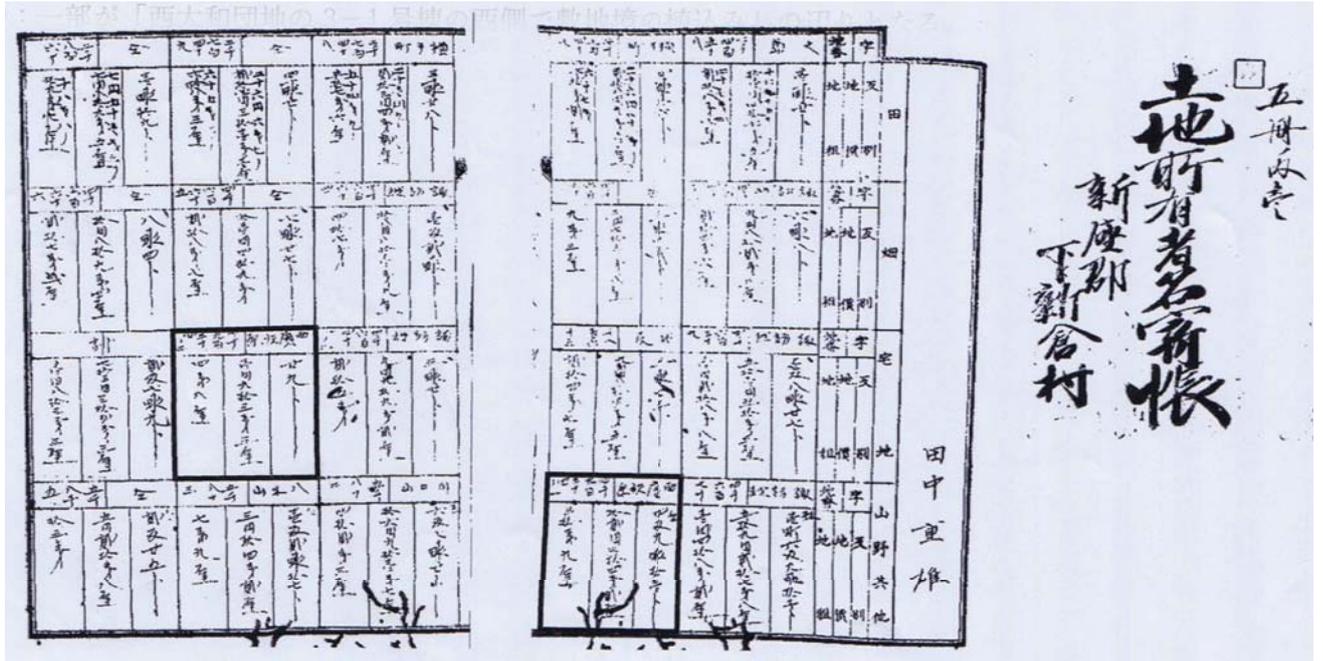


図4 土地名寄帳（新座郡下新倉村）



図5 老母稲荷社の移設地点

3. 実測・拓本調査

実測・拓本調査は、令和元年8月27日に本教育委員会が行った。また、陰刻文字の判別については文化財保護委員並木實氏の協力を得た。

漢字は、原則として常用漢字を用い、その他は原文に従ったが、原文をそこなわない範囲で、次の点を改めた。

(1) 破損などで判読できない文字は、字数のわかるものは□、□□で示した。

(2) 読点、並列点は、適宜付した。

縮尺は、実測図：1/10、拓本：原本ままのように統一した。



図6 老母稲荷社祠（正面）



図7 老母稲荷社概略見取り図

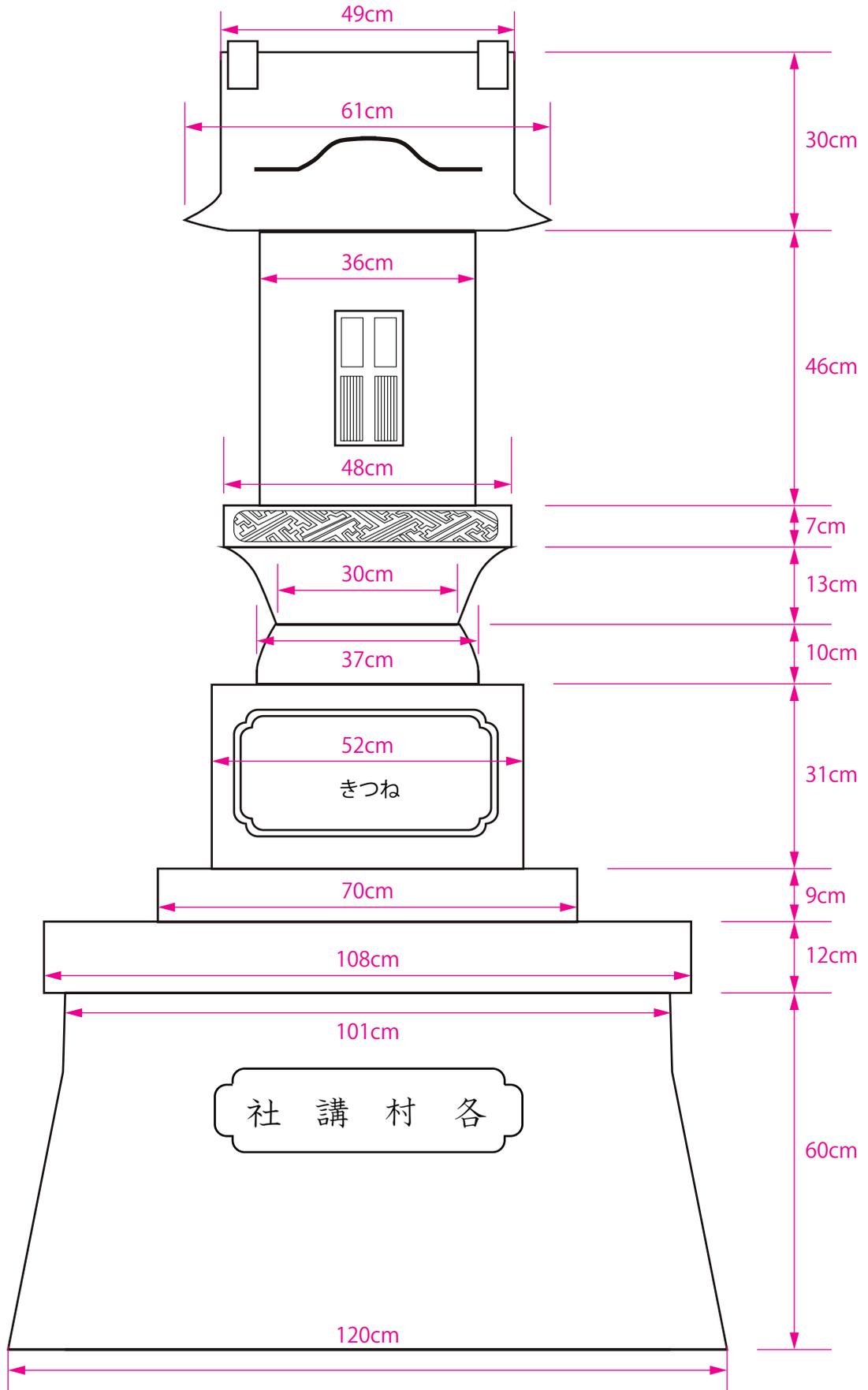


図8 実測図（正面） S=1/10

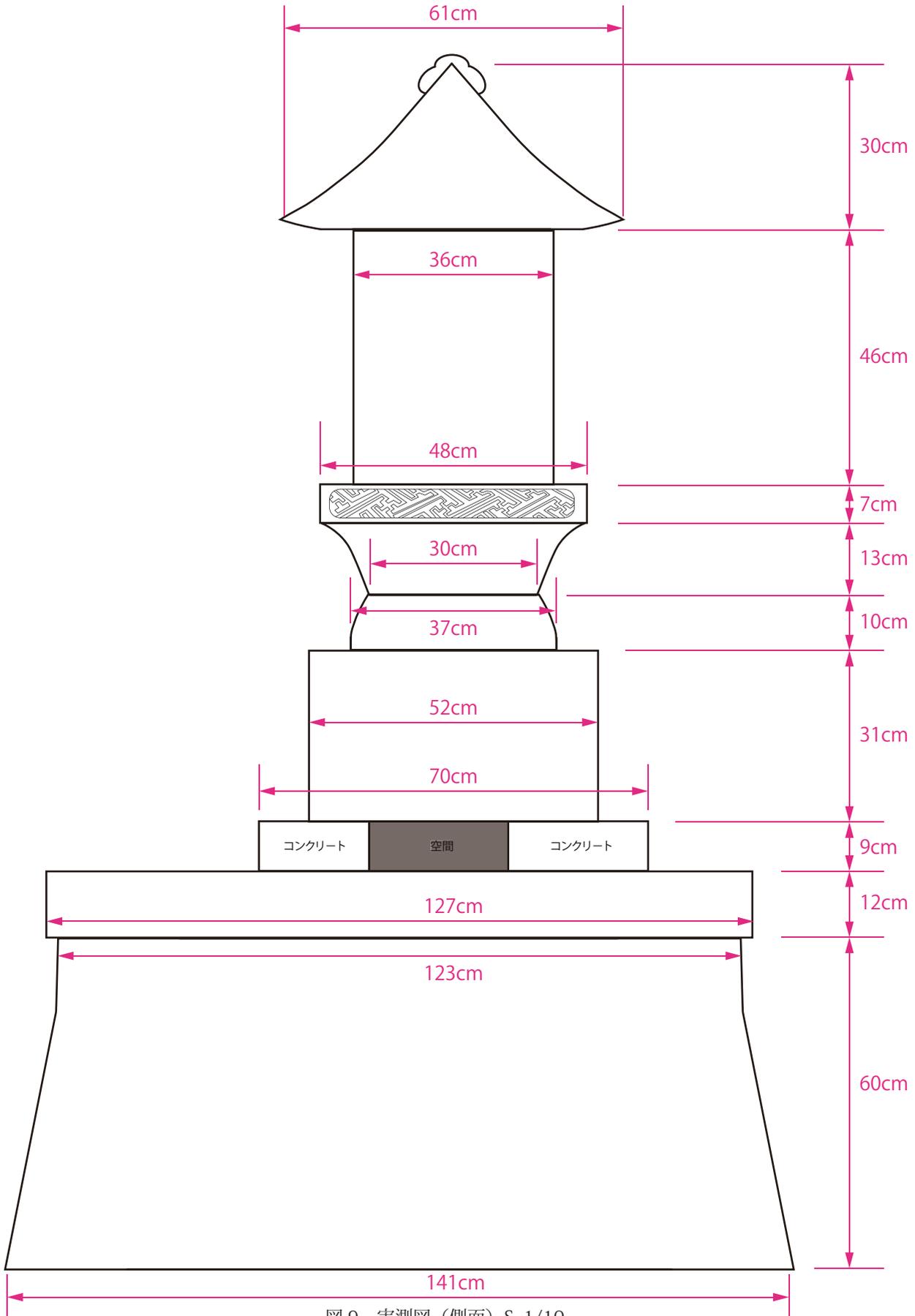


図9 実測図(側面) S=1/10

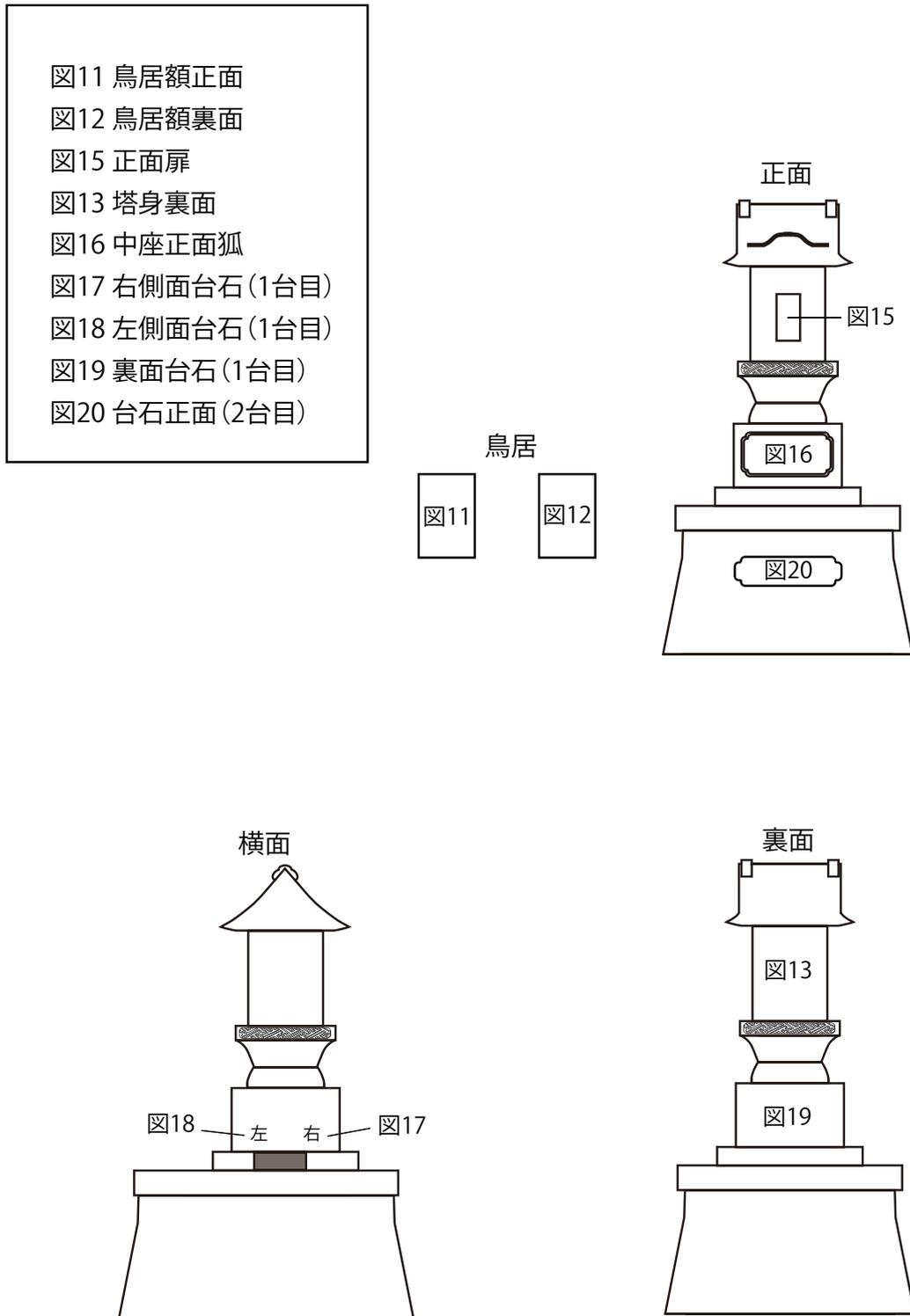


図 10 拓本配置図

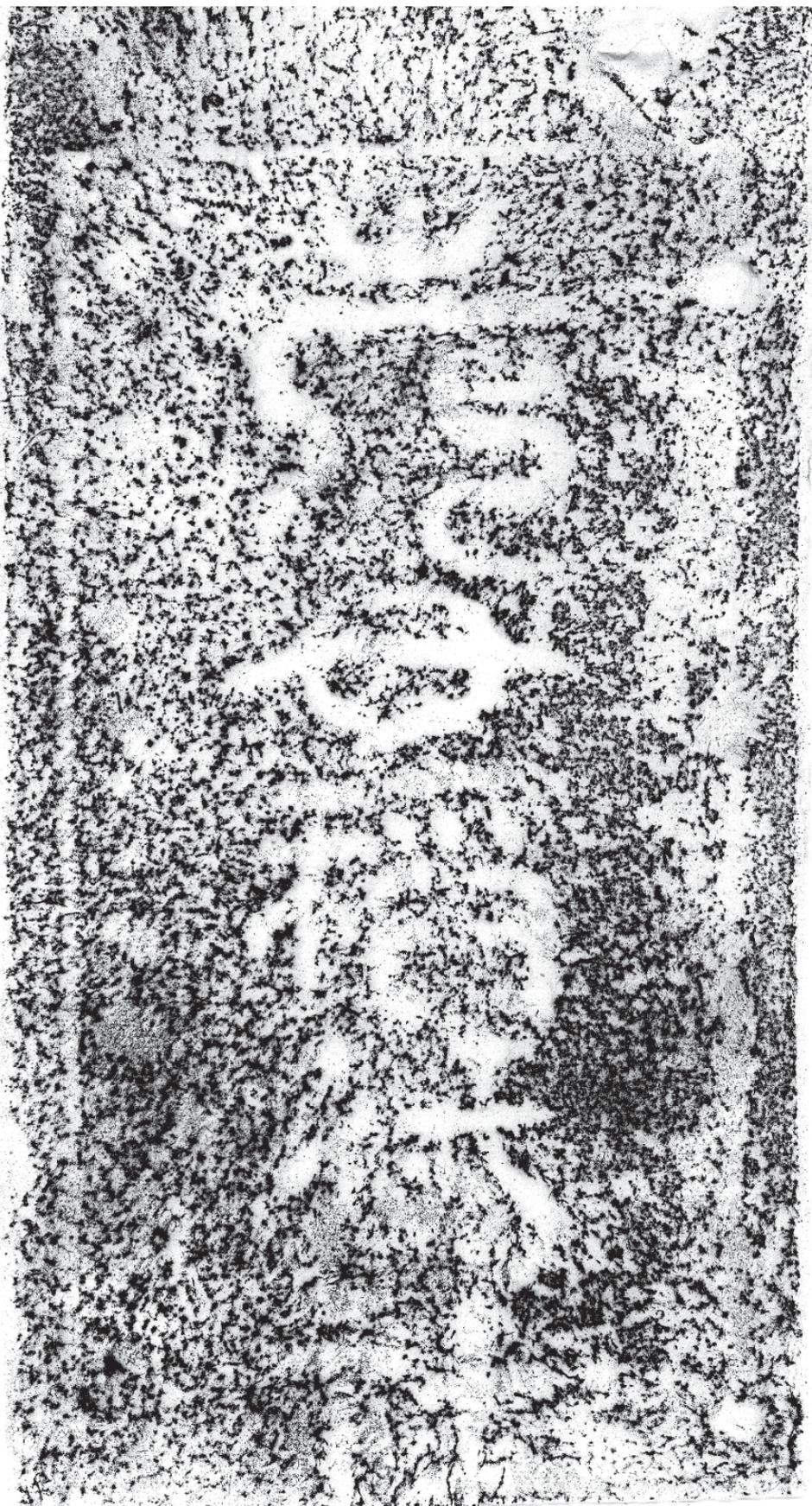


図 11-1 鳥居額正面

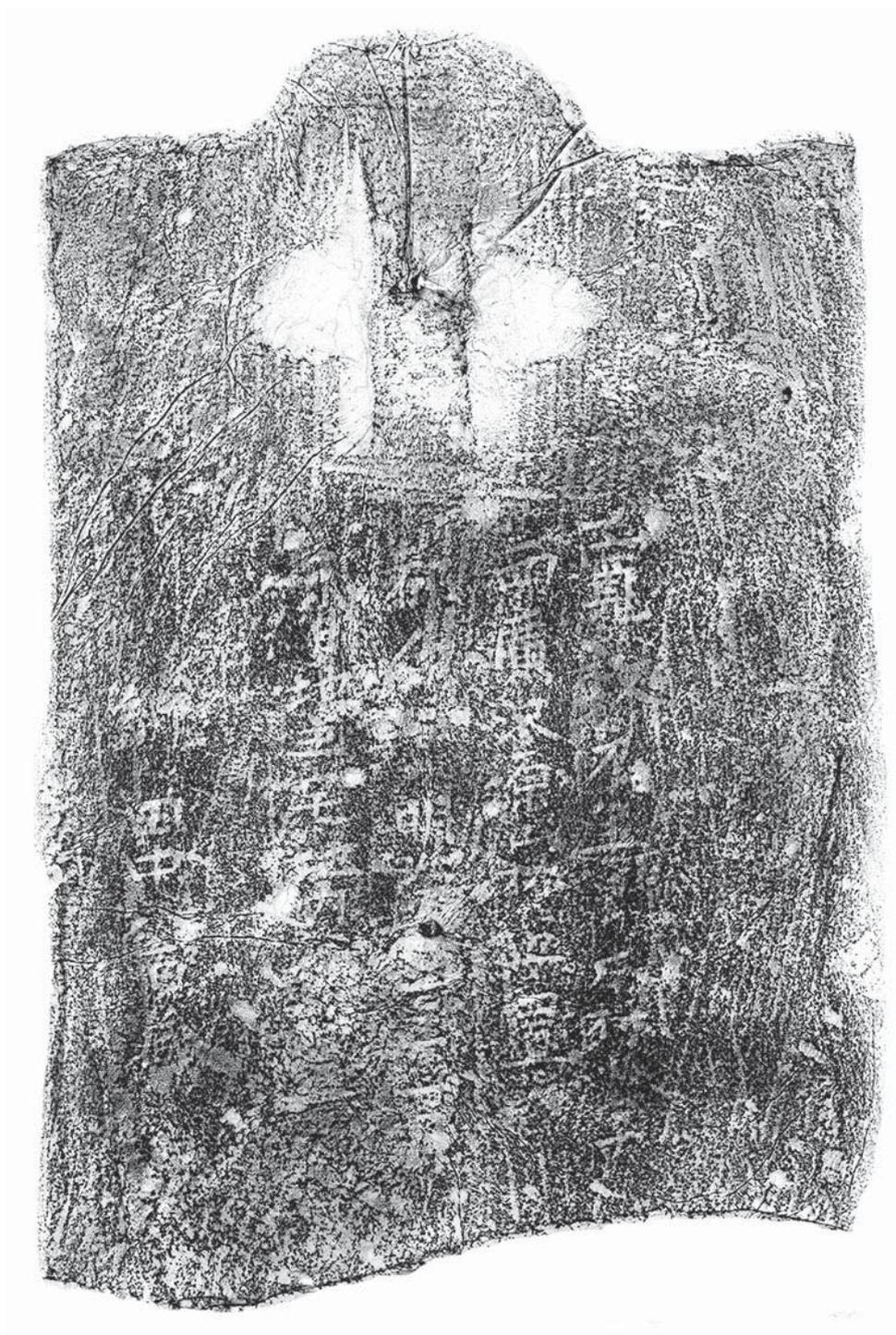


図 12-1 鳥居額裏面



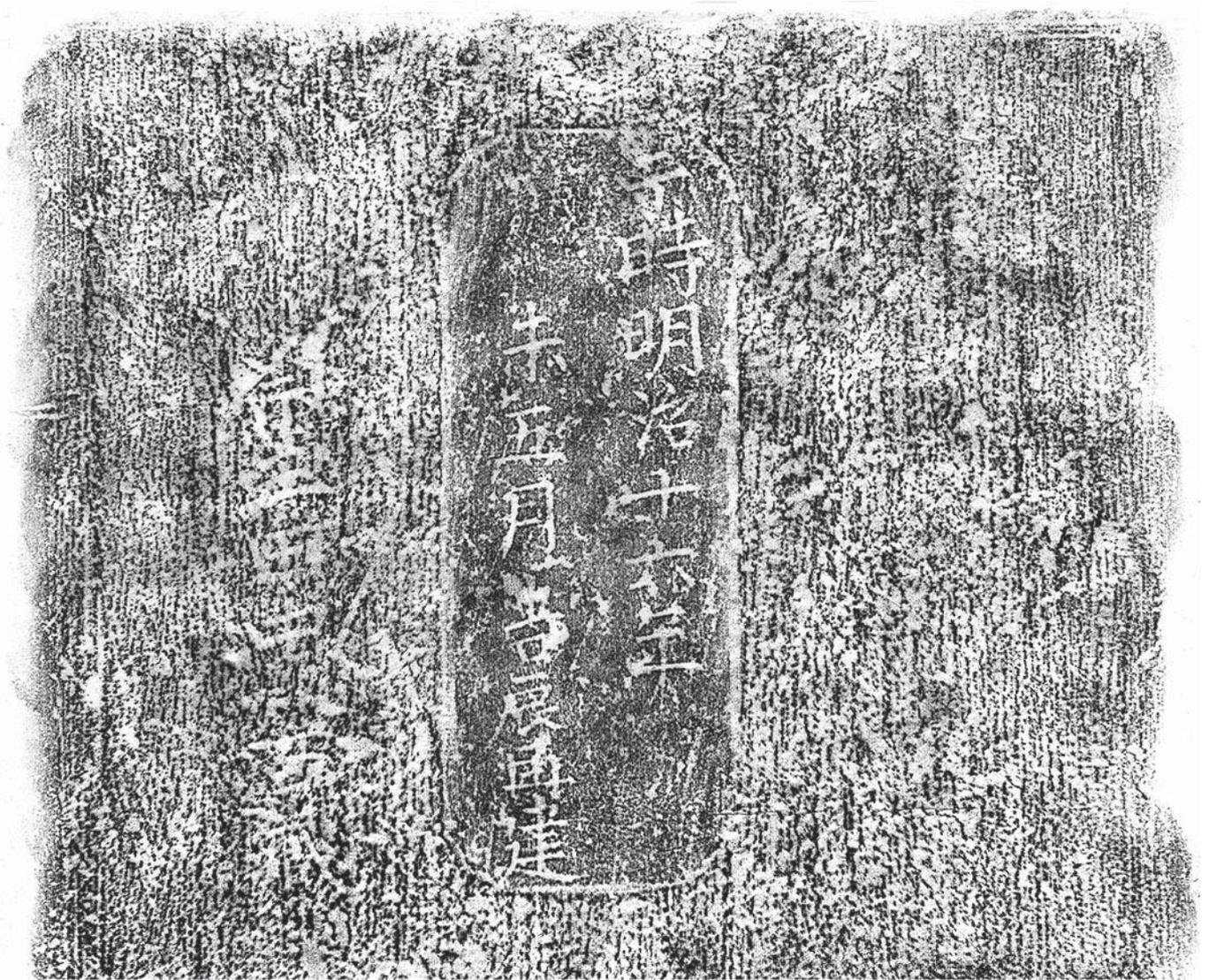
老母稻荷社

図 11-2 鳥居額正面



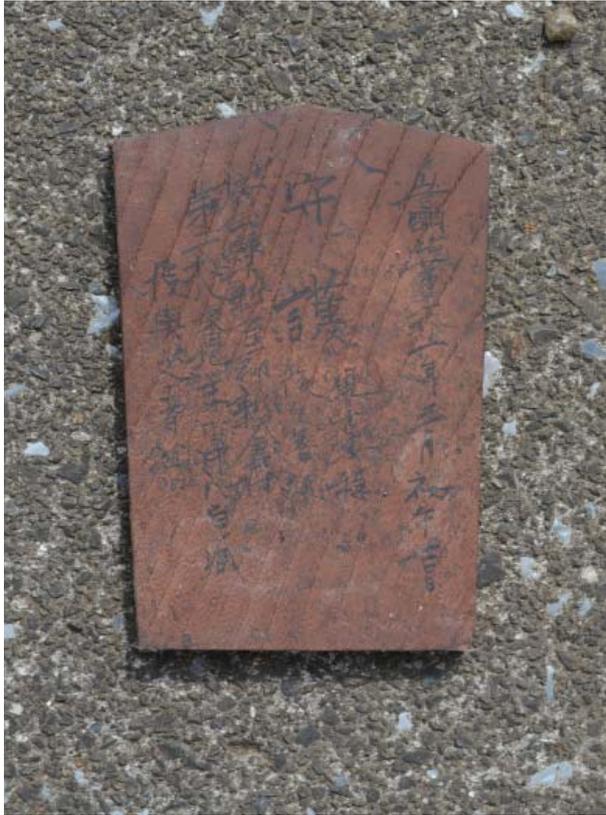
寛政元年ヨリ本村小字
西廣沢原山林ニ安置
都合ニヨリ明治拾四年二月
末日地主宅地内へ□□
納田中八百藏

図 12-2 鳥居額裏面



于時明治十六年
未五月吉辰再建
祭主 田中八百藏

図 13 塔身裏面



明治二十六年三月初午吉日
 守護 現世安穩
後生善処
 埼玉縣新座郡新倉村
 第二拾八番地田中八百藏
 授與込者也

図 14-1 祠内の木札（表）



我此土女穩大日天王
 如来夜□□之 鬼子母神
 如日月光明□□□□□□ 本□□□□□□
 南無十方三世□天神 在御
 本因下種南無妙法蓮華經日蓮判
 南無十方三世諸□□□□
 斯□□門開感□□□ 老母稻荷大明靈
 諸佛皆歡喜□無量 十羅刹女
 主人常充滿大月天王

図 14-2 祠内の木札（裏）

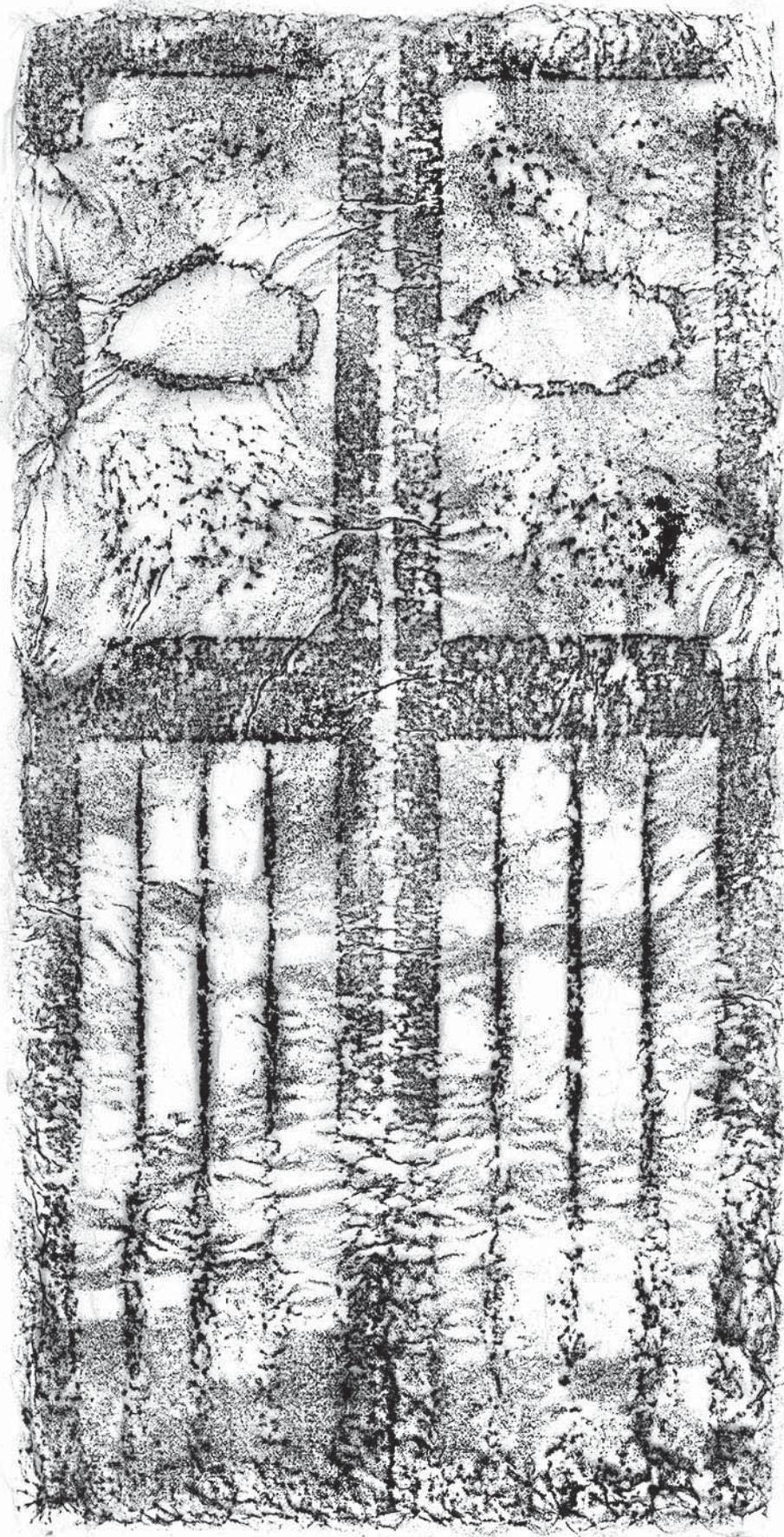


図 15 正面扉

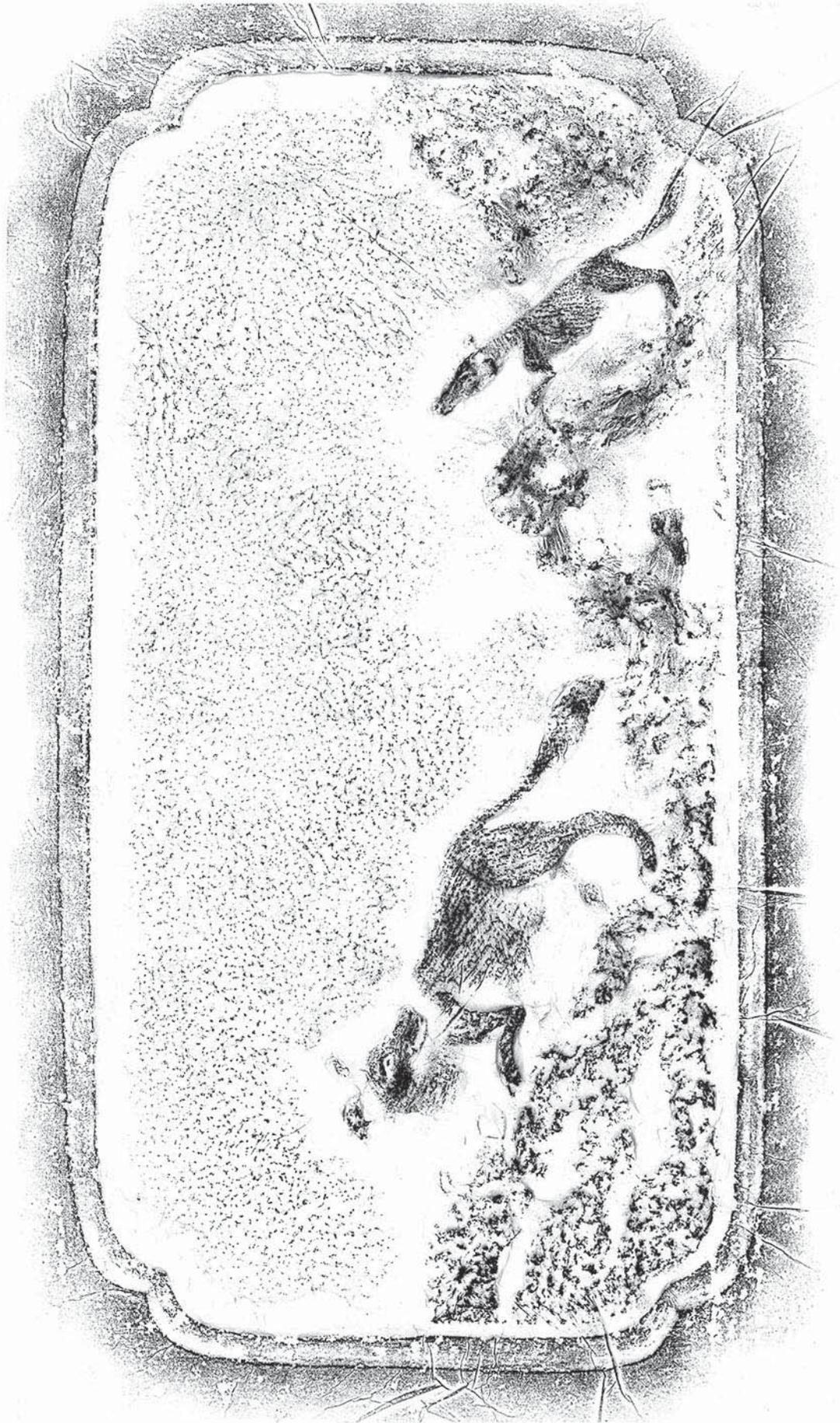


図 16 中座正面狐

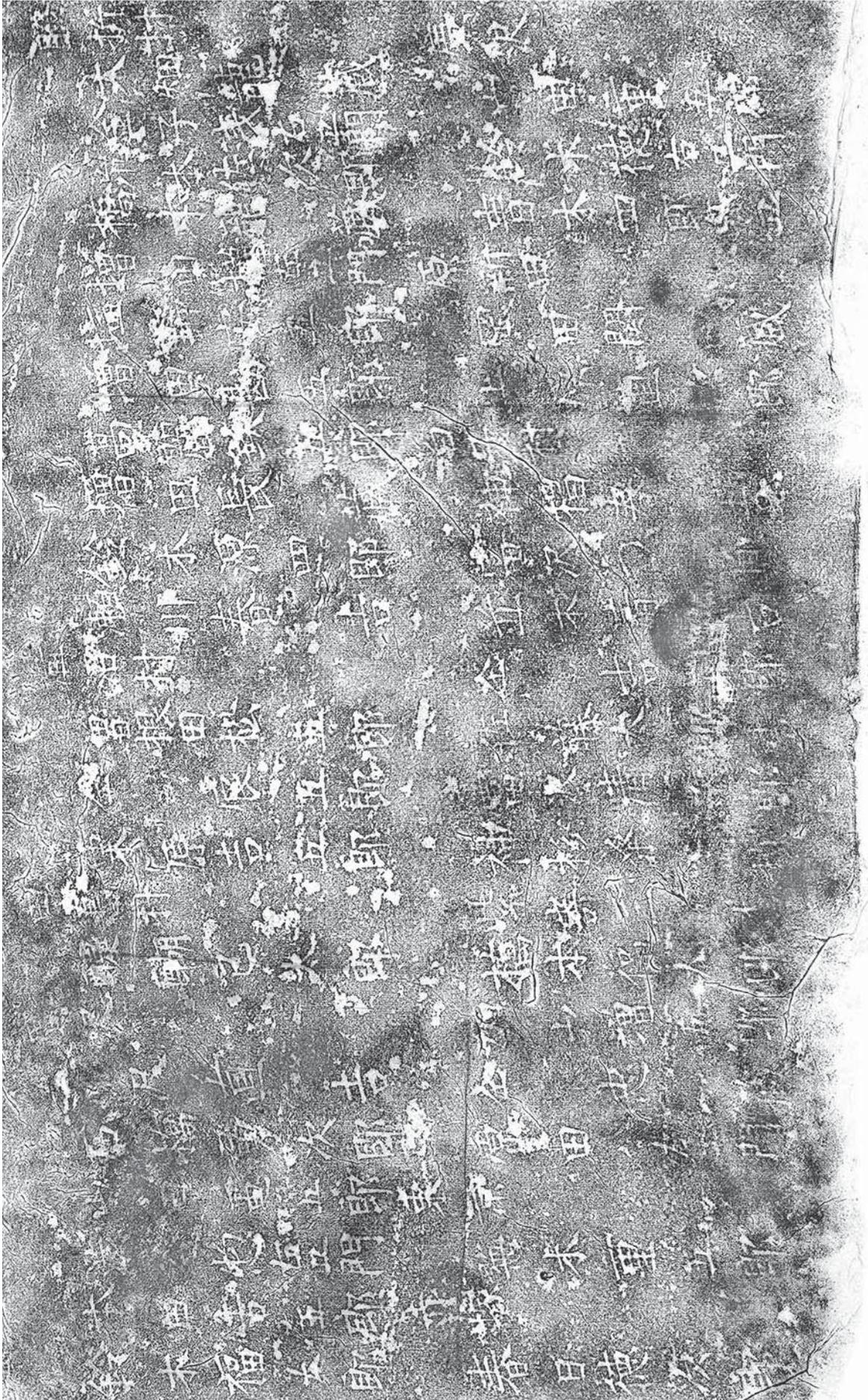


图 17-1 右側面台石 (1台目)

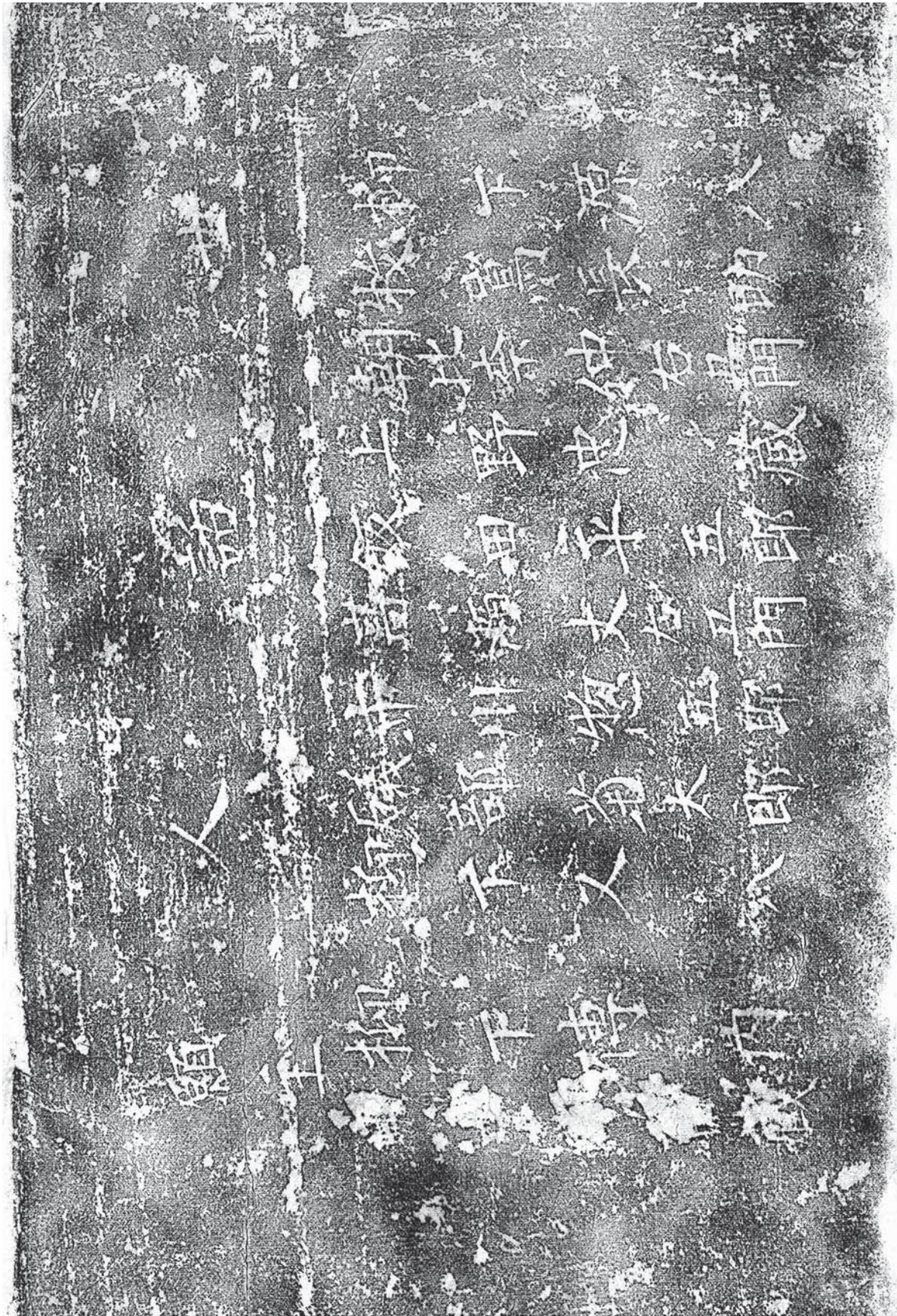


図 19-1 裏面台石 (1 台目)

鈴木福太郎	本田吉五郎	渋谷惣左エ門	山田亀五郎	石橋勇次郎	小沢 直吉	廣沢	醍醐己太郎	田嶋村	栗原吉五郎	全 辰五郎	曾根田松五郎	溝沼村	瀨川 春吉	鈴木源四郎	増田 長藏	高麗鉄五郎	増田勘五郎	塩野安五郎	増田權左エ門	橋本 瀧藏	荒木佐次郎	金子浅右エ門	木畑 龍藏	膝折村
	春日徳次郎	赤塚	蕪木重五郎	東京	原田八左エ門	廣澤	加山増五郎	橋本福太郎	紫寄 三吉	神杉糸五郎	富沢清次郎	佐藤太郎吉	全 吉□郎	並木 清吉	富沢 つ祢	神梶 春吉	白子村	上原直次郎	岡田 関藏	原新田	青木四郎兵五	鈴木徳右栄門	山田重五郎	

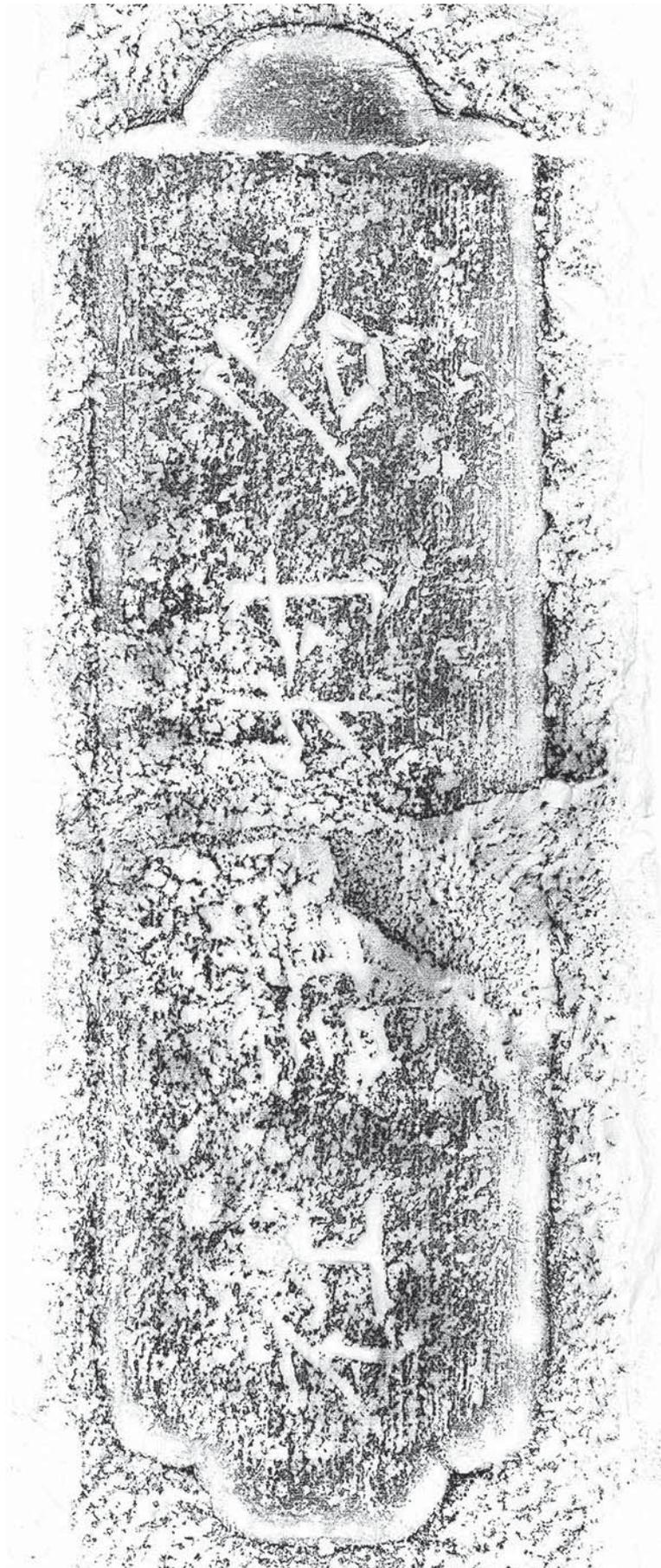
図 17-2 右側面 (1 台目)

神梶伴次郎	田中高次郎	柳下 久藏	浅久保	加藤藤次郎	全 平五郎	星野初五郎	全 辰五郎	全 新藏	市川 與市	長久保	全 萬太郎	田中文太郎	深井 清七	柳下 平八	吉田岩五郎	柴寄勝五郎	箕輪安五郎	和田長左エ門	清水 源藏	鳥居文次郎	清水 多吉	柳下幸太郎	下新倉
本橋 銀藏	沢田平十郎	坂田傳四郎	牧嶋 熊藏	堀越喜太郎	鈴木 栄内	上野伊三郎	石山糸五郎	全 民藏	磯部久太郎	関根 惣輔	野嶋萬次郎	全 米吉	全 武次郎	全 嘉七	全 金五郎	柳下藤次郎	全 幸吉	全 吉右エ門	全 せん	全 沢五郎	田中 栄吉	神梶秀五郎	浅久保

図 18-2 左側面 (1 台目)

願主	柳下 傳内	柳下 又八	磯部菊太郎	市川惣五郎	高瀬丈右エ門	飯田平五郎	上野 忠藏	朝比奈仲右エ門	牧嶋 長助	柳下 源八
×××××										

図 19-2 裏面 (1 台目)



各 村 講 社

图 20 台石正面 (2 台目)

4 まとめ

今回、老母稲荷社を後世へと伝えるため本稿に記録した。

老母稲荷社は、現在の朝霞市膝折・溝沼・田島、和光市の広沢・下新倉・白子・長久保・浅久保、東京都赤塚といった幅広い地域の人々の名前が台座に刻まれており人々の交流が伺える点が特徴的である。

江戸時代の寛政元（1789）年西広沢に建てられた老母稲荷社は、明治14（1881）年に中央へ移され、明治16（1883）年に再建された。そして、令和元（2019）年9月17日下新倉氷川神社の宮司より廃祀、昇神の儀が行われた。

約100年間は西広沢の地で、その後約135年間は中央2丁目の地で、願主をはじめ子孫の方や地域の講員が信仰し、200年以上にわたり和光市の老母稲荷社として祠守されていたこととなる。

今回、住民から信仰を集めてきた老母稲荷社について紀要に書き留めることで、老母稲荷社が後世へと残り、今後活かすことができれば幸いだ。今後の課題として、老母稲荷社の名称の由来を判明することである。

最後となりましたが本稿執筆にあたり、並木實氏にご協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。その他にも、ご協力を賜った方々に深く感謝いたします。

【引用・参考文献】

庚申懇話会編 1995 『日本石仏事典（第2版）』 庚申懇話会

和光市 1983 『和光市史 民俗編』 和光市

和光市歴史と文化を学ぶ会編 2013 『歩いてまわる和光の金石文と石造物』 和光市歴史と文化を学ぶ会

やすい あきら（和光市教育委員会）

【実績報告】令和元(平成31)年度 和光市埋蔵文化財調査年報

江口 やよい

1. はじめに

この年報は、和光市教育委員会が令和元(平成31)年度に実施した埋蔵文化財に関わる調査をまとめたものである。今年度、試掘調査を14件、工事立会を9件、計23件の調査を実施した。

試掘調査は、重機と人力による掘削作業と、測量・記録撮影を行った。工事立会は、作業状況を確認したのち記録撮影を行った。

調査ごとに、調査地の諸情報と概要、試掘調査については調査範囲を平面図化・断面図化し、また、作業状況等を撮影した写真により報告しまとめた。

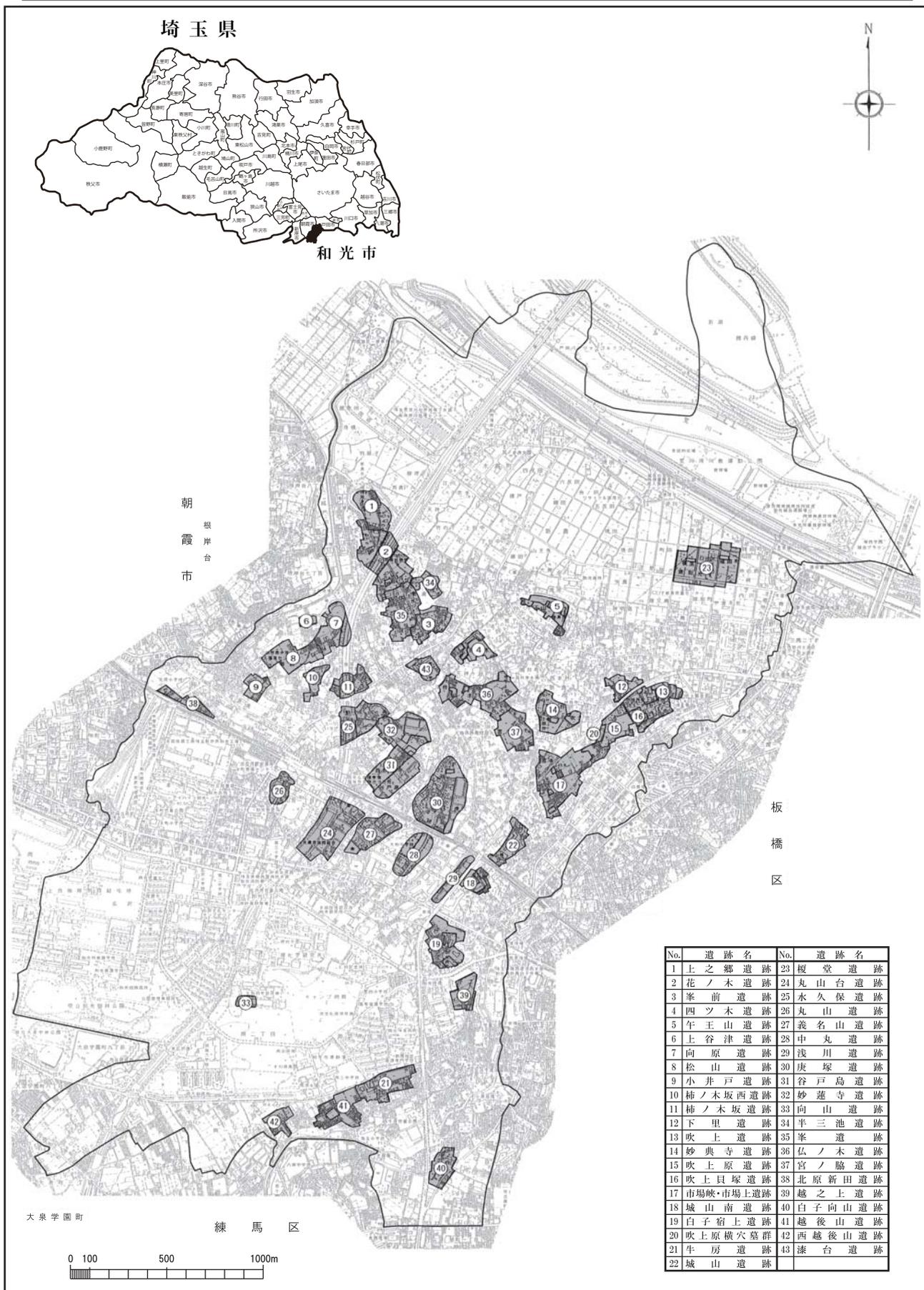
2. 表記の仕方

1. 挿図の縮尺は図中に示したとおりである。調査地点位置図は1/2500、確認調査トレンチ配置図は1/400、トレンチ柱状図は1/80であるが、一部異なる縮尺のものを含む。
2. 調査地点位置図は、和光市役所発行の地形図(平成20年修正)を一部加筆・修正加工して使用した。
3. 遺跡名の前に表記したNo.は、一覧表の番号と一致する。なお、ページ順については、試掘調査を調査日順に掲載した後、工事立会をまとめて紹介した。

資料1 令和元(平成31)年度 埋蔵文化財確認調査一覧表

No.	遺跡名	原因	調査日	調査地	面積(m ²)	調査概要
1	下里遺跡 (No. 11-012)	電柱移設工事	H31. 4. 1	下新倉4丁目4436番1	70	工事立会。
2	庚塚遺跡 (No. 11-030)	個人住宅建設	H31. 4. 3	下新倉2丁目5378番、 5379番の一部	292.90	遺構・遺物は確認されなかった。
3	越後山遺跡 (No. 11-041)	分譲住宅建設	H31. 4. 11	南1丁目2455番2	74.54	遺構・遺物は確認されなかった。
4	吹上遺跡 (No. 11-013)	個人住宅建設	H31. 4. 19	白子3丁目4387番2の 一部	102.92	遺構・遺物は確認されなかった。
5	吹上遺跡 (No. 11-013)	個人住宅建設	H31. 4. 19	白子3丁目4387番2の 一部	102.94	遺構・遺物は確認されなかった。
6	峯遺跡 (No. 11-035)	共同住宅建設	H31. 4. 25	新倉2丁目3506番20、 3507番1の一部	480.84	遺構・遺物は確認されなかった。
7	吹上遺跡 (No. 11-013)	ガス配管工事	R1. 6. 12	白子3丁目13番	35.64	工事立会。
8	越後山遺跡 (No. 11-041)	ガス配管工事	R1. 6. 12	南1丁目10番	20.88	工事立会。
9	榎堂遺跡 (No. 11-023)	電柱移設工事	R1. 6. 12	下新倉6丁目133番2	2.00	工事立会。
10	峯前遺跡 (No. 11-003)	個人住宅建設	R1. 6. 28	新倉2丁目3522番1の 一部	303.08	遺構・遺物は確認されなかった。

No.	遺 跡 名	原 因	調 査 日	調 査 地	面積 (㎡)	調 査 概 要
11	吹上原遺跡 (No. 11-015)	土地区画整理	R1. 7. 25	白子3丁目4452番2	295	遺構・遺物は確認されなかった。
12	峯遺跡 (No. 11-035)	電柱移設工事	R1. 8. 2	新倉2丁目23番3	2. 00	工事立会。
13	上谷津遺跡 (No. 11-006)	ガス配管工事	R1. 9. 12	新倉1丁目23・28番地	9. 0	工事立会。
14	半三池遺跡 (No. 11-034)	擁壁工事	R1. 9. 26	新倉2丁目23番地先	50	遺構あり。
15	上之郷遺跡 (No. 11-001)	個人住宅建設	R1. 11. 6	新倉2丁目3206番22	111. 74	遺構・遺物は確認されなかった。
16	向山遺跡隣接地 (No. 11-033)	公共施設建設	R1. 11. 26-27	広沢2660-4、本町 4835-9	8970. 75	遺構・遺物は確認されなかった。
17	越後山遺跡 (No. 11-041)	分譲住宅建設	R1. 12. 20	南1丁目2452番15	112. 56	遺構・遺物は確認されなかった。
18	峯前遺跡 (No. 11-003)	個人住宅建設	R2. 1. 15	新倉2丁目2996番8、 2997番5	255. 73	遺構・遺物は確認されなかった。
19	峯遺跡 (No. 11-035)	共同住宅建設	R2. 2. 7	新倉2丁目3507-1及 び3510-1の各一部	496. 3	遺構・遺物は確認されなかった。
20	吹上原遺跡 (No. 11-015)	電柱移設工事	R2. 2. 26	白子3丁目11番66	2. 0	工事立会。
21	向原遺跡 (No. 11-007)	ガス供給工事	R2. 3. 3	新倉1-31他	40. 0	工事立会。
22	義名山遺跡 (No. 11-027)	携帯電話基地 局設置	R2. 3. 9	丸山台2丁目23番1	2. 25	工事立会。
23	越之上遺跡 (No. 11-039)	倉庫、事務所建 設	R2. 3. 10-12	白子2丁目1366番1	1, 484	遺構・遺物は確認されなかった。



第1図 和光市遺跡分布地図

試掘調査

No.2 庚塚遺跡

調査目的 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

所在地 和光市下新倉2丁目5378番,5379番1の一部

調査日 平成31年4月3日

調査面積 292.90㎡

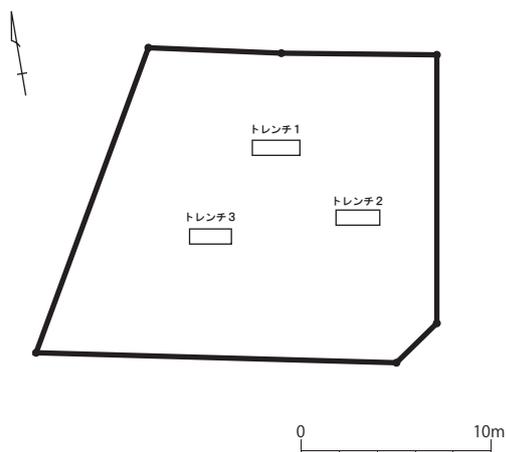
調査概要

調査地は、庚塚遺跡（No.11-030）の中央に位置する。調査は、対象地内に幅約80cm長さ約2m20cm～2m50cmのトレンチを3本設定した（第3図）。調査区全体を140cm～180cm程度まで掘り下げた（第4図）。

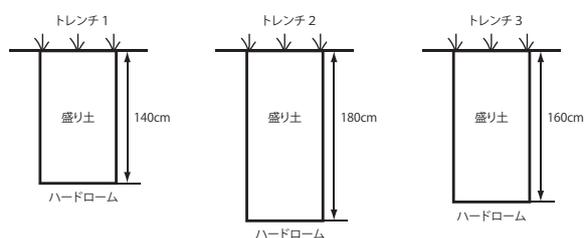
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第2図 調査地点位置図



第3図 調査区位置図



第4図 トレンチ柱状図 (S=1/80)



作業状況



掘削状況

試掘調査

No.3 越後山遺跡

調査目的 分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

所在地 和光市南1丁目2455番2

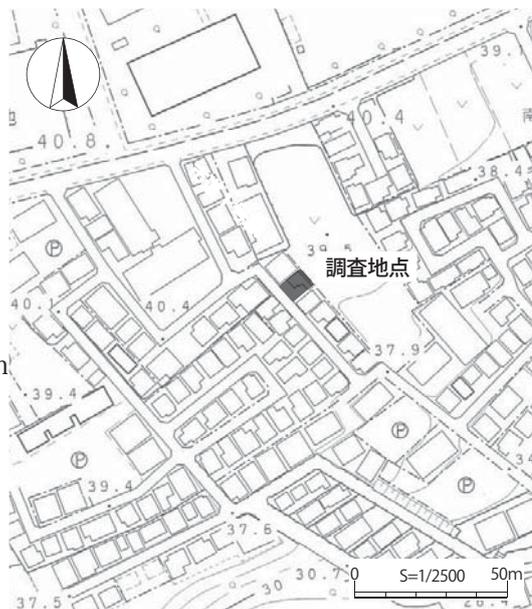
調査日 平成31年4月11日

調査面積 74.54㎡

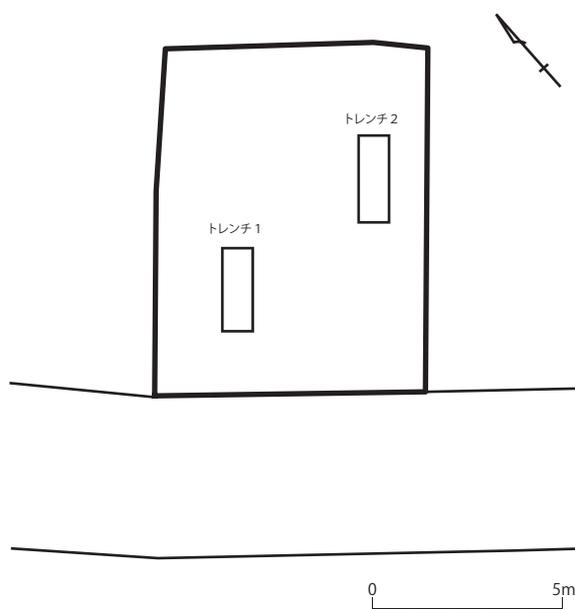
調査概要

調査地は、越後山遺跡(No.11-041)の中央に位置する。調査は、対象地内に幅約80cm長さ約2m20cmと2m30cmのトレンチを2本設定した(第6図)。調査区全体を60cm程度まで掘り下げた(第7図)。

調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第5図 調査地点位置図



第6図 調査区位置図



第7図 トレンチ柱状図(S=1/80)



作業状況



掘削状況

試掘調査

No.4 吹上遺跡

調査目的 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

所在地 和光市白子3丁目4387番2の一部

調査日 平成31年4月19日

調査面積 102.92 m²

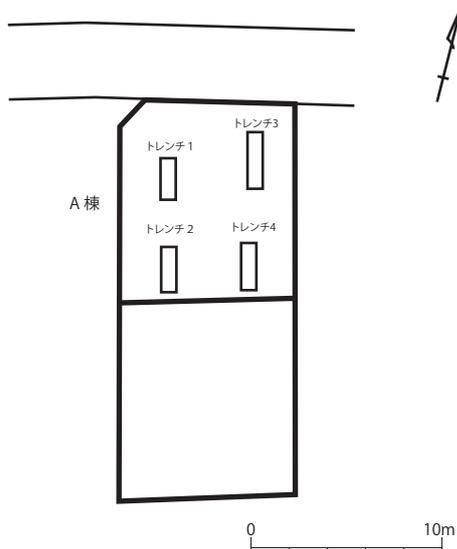
調査概要

調査地は、吹上遺跡 (No.11-013) の中央に位置する。調査は、対象地内に幅約80cm長さ約2m20cm～3mのトレンチを4本設定した (第9図)。調査区全体を60cm～120cm程度まで掘り下げた (第10図)。

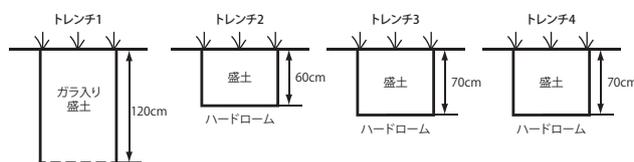
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第8図 調査地点位置図



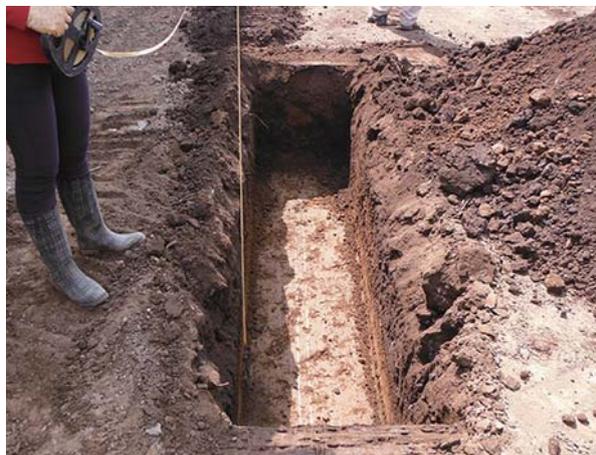
第9図 調査区位置図



第10図 トレンチ柱状図 (S=1/80)



作業状況



掘削状況

試掘調査

No.5 吹上遺跡

調査目的 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

所在地 和光市新倉3丁目4387番2の一部

調査日 平成31年4月19日

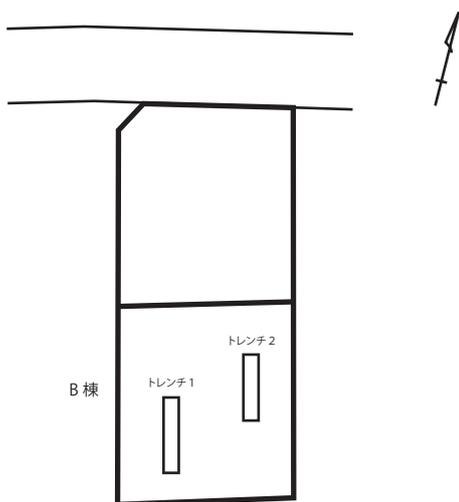
調査面積 102.94㎡

調査概要

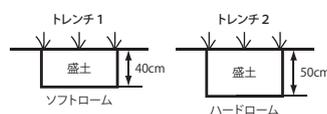
調査地は、吹上遺跡(No.11-013)の中央に位置する。
 調査は、対象地内に幅約80cm長さ約3m50cmと4mの
 トレンチを2本設定した(第12図)。
 調査区全体を40cm～50cm程度まで掘り下げた(第13図)。
 調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は
 認められなかった。



第11図 調査地点位置図



第12図 調査区位置図



第13図 トレンチ柱状図(S=1/80)



作業状況



掘削状況

試掘調査

No.6 峯遺跡

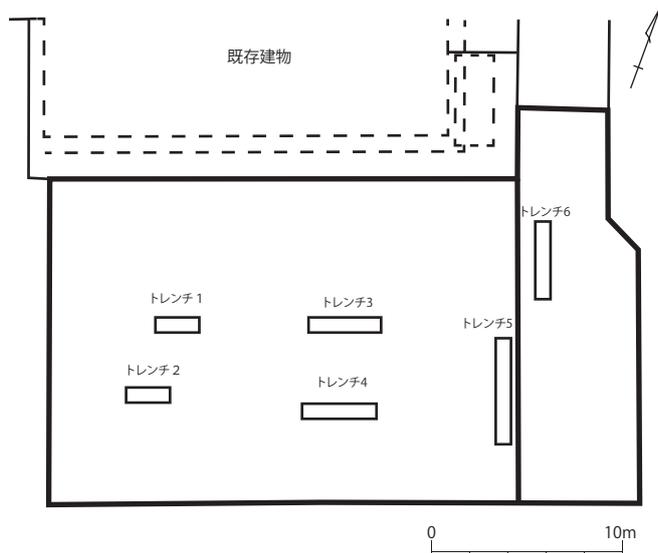
調査目的 共同住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査
 所在地 和光市新倉2丁目3506-20及び3507-1の各一部
 調査日 平成31年4月25日
 調査面積 480.84㎡

調査概要

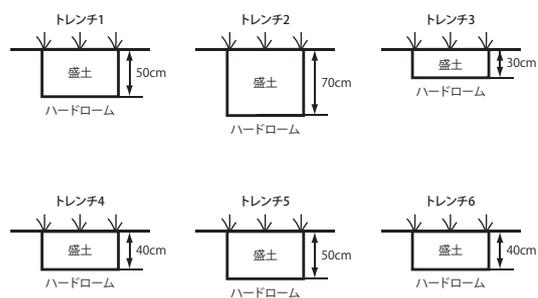
調査地は、峯遺跡 (No.11-035) の西側に位置する。
 調査は、対象地内に幅約80cm長さ約2m30cm～5m60cmのトレンチを6本設定した (第15図)。調査区全体を30cm～70cm程度まで掘り下げた (第16図)。
 調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第14図 調査地点位置図



第15図 調査区位置図



第16図 トレンチ柱状図 (S=1/80)



作業状況



掘削状況

試掘調査

No.10 峯前遺跡

調査目的 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

所在地 和光市新倉2-3522-1の一部

調査日 令和元年6月28日

調査面積 303.08㎡

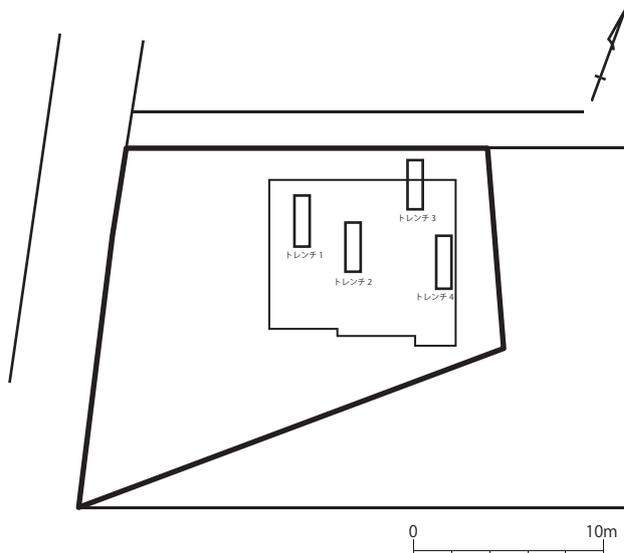
調査概要

調査地は、峯前遺跡(No.11-003)の西側に位置する。調査は、対象地内に幅約80cm長さ約2m60cm～2m80cmのトレンチを4本設定した(第18図)。調査区全体を110cm～120cm程度まで掘り下げた(第19図)。

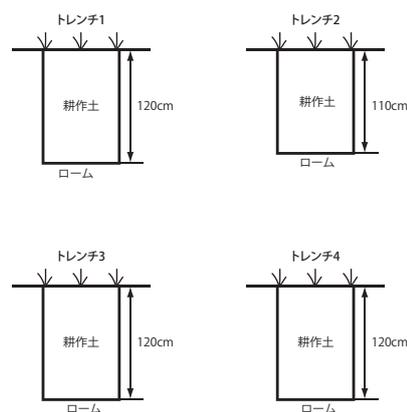
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第17図 調査地点位置図



第18図 調査区位置図



第19図 トレンチ柱状図(S=1/80)



作業状況



掘削状況

試掘調査

No.11 吹上原遺跡

調査目的 土地区画整理に伴う埋蔵文化財確認調査

所在地 和光市白子3丁目4452-2

調査日 令和元年7月25日

調査面積 295 m²

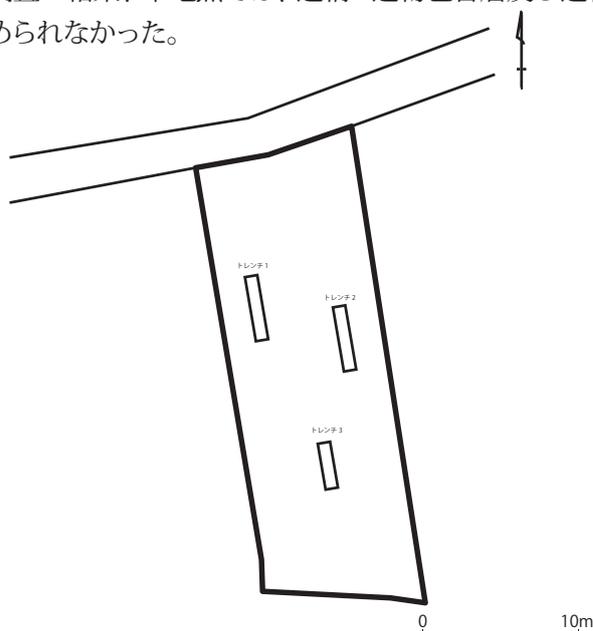
調査概要

調査地は、吹上原遺跡 (No.11-015) の南東に位置する。調査は、対象地内に幅約80cm長さ約3m～4m20cmのトレンチを3本設定した(第21図)。調査区全体を60cm～80cm程度まで掘り下げた(第22図)。

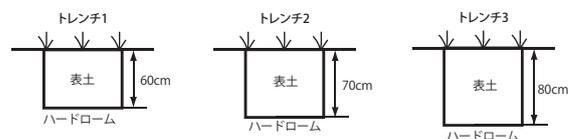
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第20図 調査地点位置図



第21図 調査区位置図



第22図 トレンチ柱状図 (S=1/80)



試掘調査

No.15 上之郷遺跡

調査目的 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

所在地 和光市新倉2丁目3206番22

調査日 令和元年11月6日

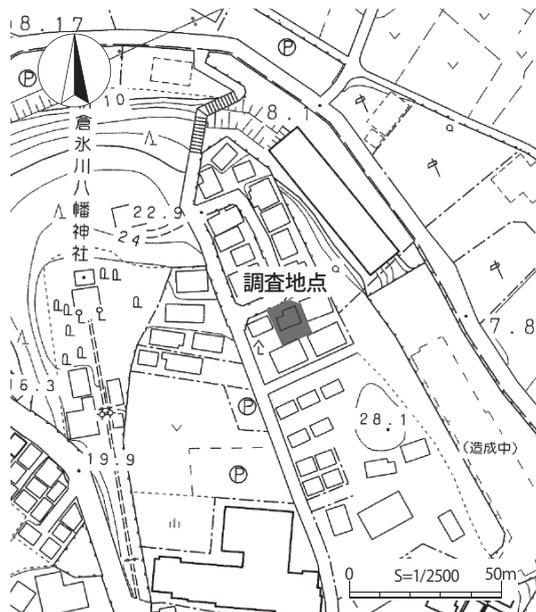
調査面積 111.74㎡

調査概要

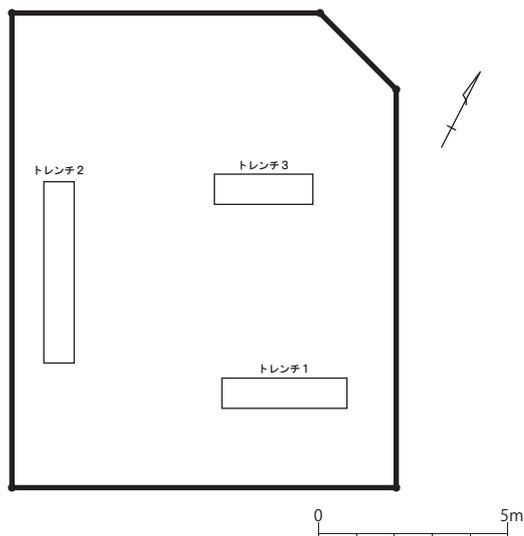
調査地は、上之郷遺跡(No.11-001)の中央に位置する。
調査は、対象地内に幅約80cm長さ約2m60cm～4m80cmの
トレンチを3本設定した(第24図)。

調査区全体を20cm～30cm程度まで掘り下げた(第25図)。

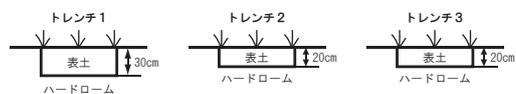
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は
認められなかった。



第23図 調査地点位置図



第24図 調査区位置図



第25図 トレンチ柱状図(S=1/80)



作業状況



掘削状況

試掘調査

No.16 向山遺跡隣接地

調査目的 公共施設建設に伴う埋蔵文化財確認調査

所在地 和光市広沢2660-4、本町4835-9

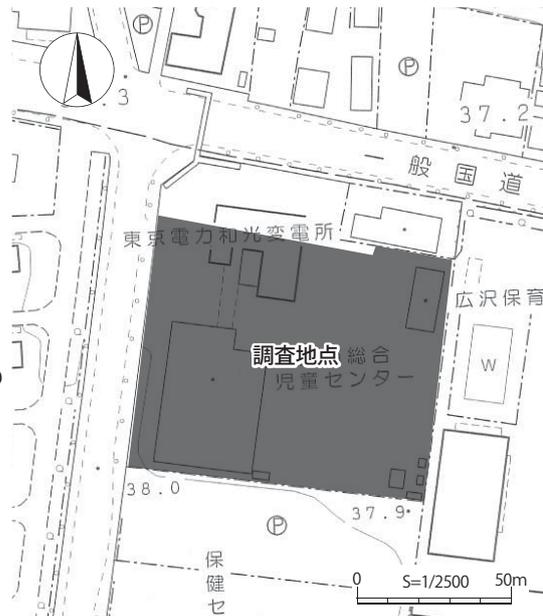
調査日 令和元年11月26・27日

調査面積 8970.75㎡

調査概要

調査地は、向山遺跡（No.11-033）の北西方向に隣接する。調査は、対象地内に幅約80cm長さ約3m60cm～6m30cmのトレンチを18本設定した（第27図）。調査区全体を80cm～220cm程度まで掘り下げた（第28図）。

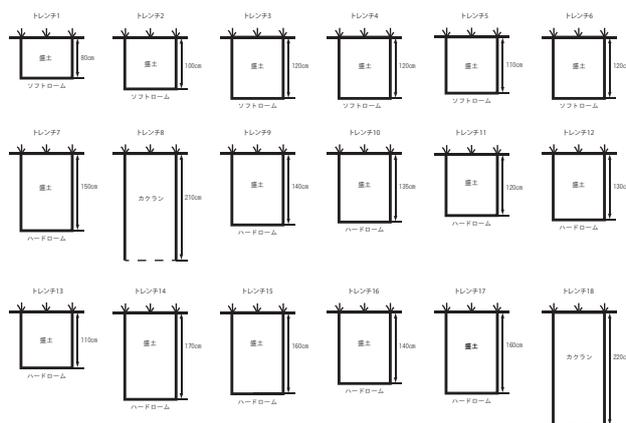
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第26図 調査地点位置図



第27図 調査区位置図



第28図 トレンチ柱状図 (S=1/150)



作業状況



掘削状況

試掘調査

No.17 越後山遺跡

調査目的 分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

所在地 和光市南1丁目2452番15

調査日 令和元年12月20日

調査面積 112.56㎡

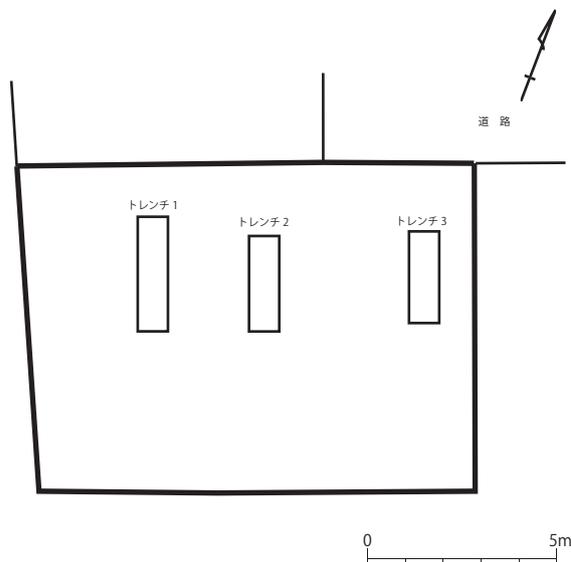
調査概要

調査地は、越後山遺跡(No.11-041)の西端に位置する。調査は、対象地内に幅約80cm長さ約2m40cm～3mのトレンチを3本設定した(第30図)。調査区全体を110cm～270cm程度まで掘り下げた(第31図)。

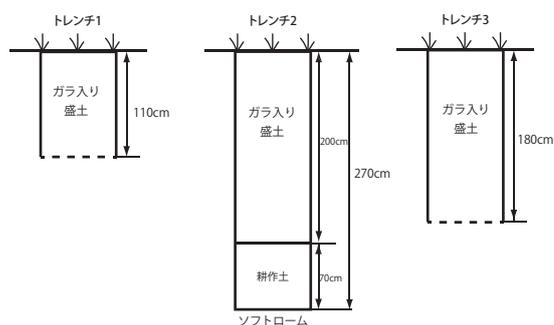
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第29図 調査地点位置図



第30図 調査区位置図



第31図 トレンチ柱状図 (S=1/80)



作業状況



掘削状況

試掘調査

No.18 峯前遺跡

調査目的 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

所在地 和光市新倉2丁目2996番8、2997番5

調査日 令和2年1月15日

調査面積 255.73㎡

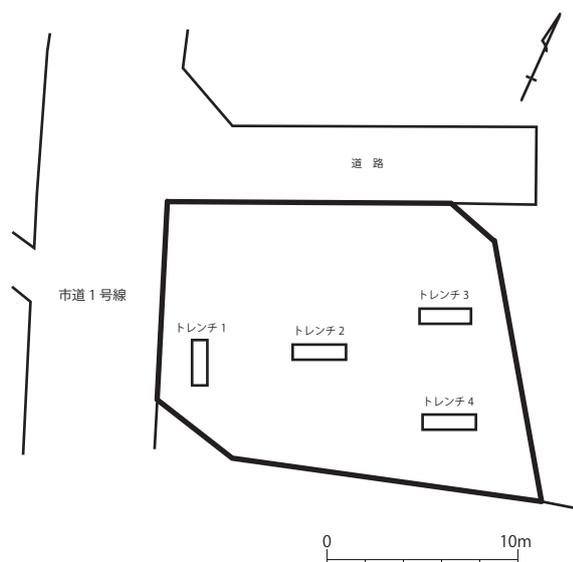
調査概要

調査地は、峯前遺跡 (No.11-003) の北西に位置する。調査は対象地内に幅約80cm長さ約2m70cm～2m90cmのトレンチを4本設定した (第33図)。調査区全体を180cm～230cm程度まで掘り下げた (第34図)。

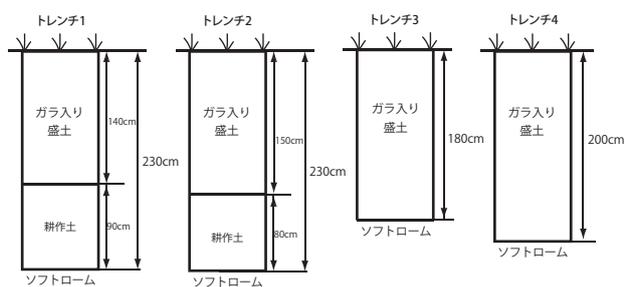
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第32図 調査地点位置図



第33図 調査区位置図



第34図 トレンチ柱状図 (S=1/80)



作業状況



掘削状況

試掘調査

No.19 峯遺跡

調査目的 共同住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査
 所在地 和光市新倉2丁目3507-1及び3510-1の各一部
 調査日 令和2年2月7日
 調査面積 496.3㎡

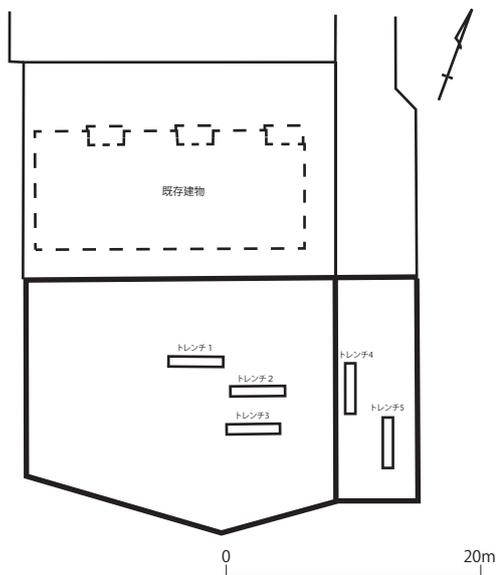
調査概要

調査地は、峯遺跡(No.11-035)の西側に位置する。
 調査は、対象地内に幅約80cm長さ約4m～4m30cmのトレンチを5本設定した(第36図)。調査区全体を50cm～90cm程度まで掘り下げた(第37図)。

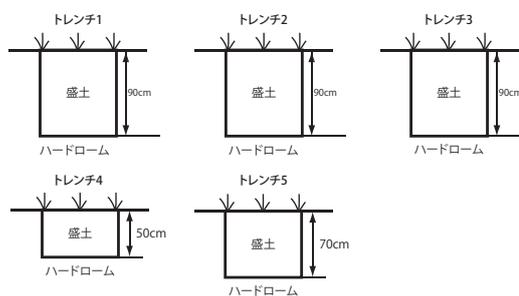
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第35図 調査地点位置図



第36図 調査区位置図



第37図 トレンチ柱状図(S=1/80)



作業状況



掘削状況

試掘調査

No.23 越之上遺跡

調査目的 倉庫、事務所建設に伴う埋蔵文化財確認調査

所在地 和光市白子2丁目1366番1

調査日 令和2年3月10日～12日

調査面積 1484 m²

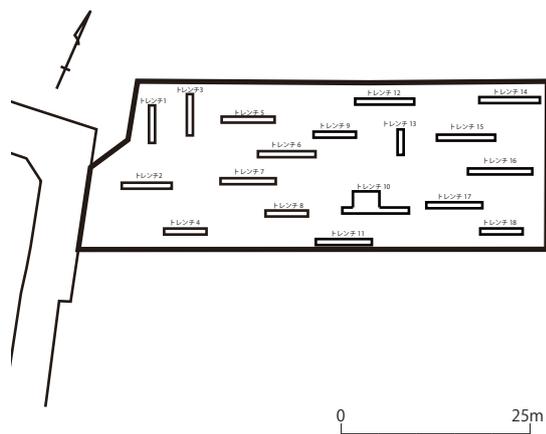
調査概要

調査地は、越之上遺跡 (No.11-039) の北西に位置する。調査は、対象地内に幅約80cm長さ約3m40cm～8m50cmのトレンチを17本、幅約2m90cm長さ約8m80cmの不定形なトレンチを1本設定した (第39図)。調査区全体を50cm～120cm程度まで掘り下げた (第40図)。

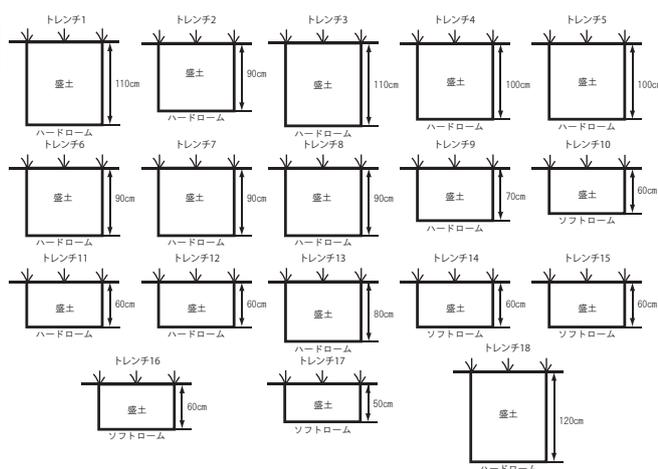
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第38図 調査地点位置図



第39図 調査区位置図



第40図 トレンチ柱状図 (S=1/100)



作業状況



掘削状況

工事立会

No.1 下里遺跡

開発目的 電柱移設工事

所在地 和光市下新倉4丁目4436番1

調査日 平成31年4月1日

開発面積 70㎡

調査概要 工事立会。

工事立会

No.7 吹上遺跡

開発目的 ガス配管工事

所在地 和光市白子3丁目13番

調査日 令和元年6月12日

開発面積 35.64㎡

調査概要 工事立会。

工事立会

No.8 越後山遺跡

開発目的 ガス配管工事

所在地 和光市南1丁目10番

調査日 令和元年6月12日

開発面積 20.88㎡

調査概要 工事立会。

工事立会

No.9 榎堂遺跡

開発目的 電柱移設工事

所在地 和光市下新倉6丁目133番2

調査日 令和元年6月12日

開発面積 2㎡

調査概要 工事立会。

工事立会

No.12 峯遺跡

開発目的 電柱移設工事

所在地 和光市新倉2丁目23番3

調査日 令和元年8月2日

開発面積 2㎡

調査概要 工事立会。

工事立会

No.13 上谷津遺跡

開発目的 ガス配管工事

所在地 和光市新倉1丁目23・28番地

調査日 令和元年9月12日

開発面積 9㎡

調査概要 工事立会。

工事立会

No.20 吹上原遺跡

開発目的 電柱移設工事
所在地 和光市白子3丁目11番66
調査日 令和2年2月26日
開発面積 2㎡
調査概要 工事立会。

工事立会

No.21 向原遺跡

開発目的 ガス供給工事
所在地 和光市新倉1-31他
調査日 令和2年3月3日
開発面積 40㎡
調査概要 工事立会。

工事立会

No.22 義名山遺跡

開発目的 携帯電話基地局設置
所在地 和光市丸山台2丁目23番1
調査日 令和2年3月9日
開発面積 2.25㎡
調査概要 工事立会。

えぐち やよい（和光市教育委員会）

【資料紹介】

長嶋酒造について

一．はじめに

矢崎 康彦

和光市立白子小学校は創立百四十周年を迎えるに当たって、郷土資料室の整備充実に取り組んでおり、私は昭和五十九年の社会科研究発表会で資料室設置を担当したことから学校応援団の一人として協力していた。

平成二十六年「長嶋酒造に唯一残されていたレンガ造りの煙突や納屋が撤去される。資料を頂けるかも」と、下新倉の吉田武司氏より紹介があり、早速校長と共に伺い、当主柳下氏のご了解を得て貴重な資料を白子小学校に寄贈して頂いたものである。

寄贈資料は、教育関係の教科書やノート、他に参考書や一般図書、酒造関係の図書及び道具や什器類、その他レンガ造り煙突の古レンガ等で、今回紹介する酒造日誌は、段ボール箱に保管されていた古い図書の中より奇

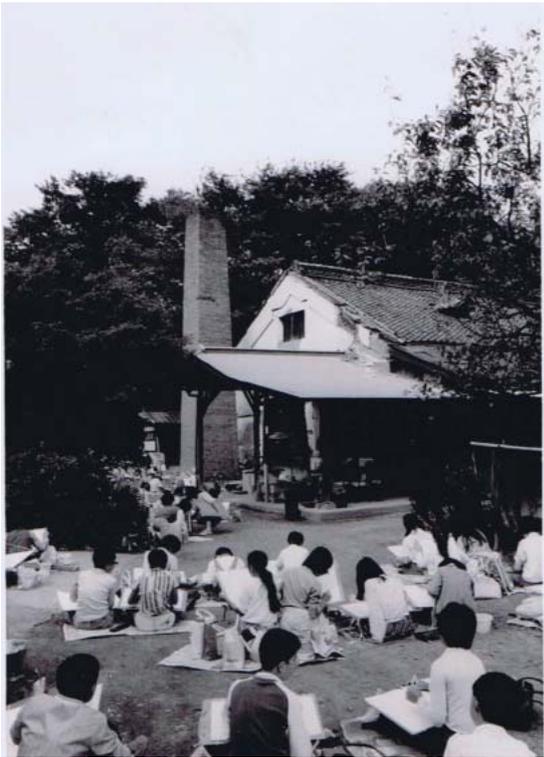


写真1 白子小学校児童の写生会風景
昭和 55 (1980) 年頃

跡的に発見された資料である。当資料は、他の酒造関係とともに白子小学校の式典前後に地域住民、保護者、児童に公開展示された。今回その一部を活性化し公開できる様になり、未だ不明な点が多い郷土の酒造り解明の一助にされたら幸甚である。

今回は、明治二十六年度酒造日記(第一号)に先立ち、より酒造りが詳細に記述されている(第三号)明治二十六年度酒造日誌の公開を優先した。ただし、目録中(5)桶遣法及び火入夏守日記以下(6)、(7)、(8)は紙面の都合上次の機会に譲ることにした。また、一部参考資料として重要と思われる記述は取り上げるとともに図や表に示した。

二．長嶋酒造について

近年、日本酒は洋酒やビールの人気に押されて長く低迷していたが、今ではG20で各国首脳に紹介されるなど、ワインの様な芳香美味から世界に嗜好者が増加し、地酒・銘酒の醸造が盛んになっているようだ。

和光市においても長泉と秀峰の二銘柄が昔し醸造販売されていたが、残念なことに現在この地酒を賞味することはできない。

長泉を醸造していた長嶋酒造は、江戸時代から続く酒造だったが、昭和一八年に戦時の統制令から原料米の入手が困難となり廃業に至った。残された蔵は平成十一年に調査され、蔵の歴史、構造、レンガ煙突、酒造りについて、『和光市のむかし第十二集』に収録、公開されている。特に第五章の酒造りの章では、当主柳下稔氏から聞き取りをし十頁に及ぶ記述がまとめられ、記録の少ない地元酒造り関係唯一の報告書である。

その他、明治大正期の坂下を語る座談会をまとめた昭和五十六年の坂下公民館編集『坂下の歴史』の中に明治三十年代生まれの方の話が載っており、「酒はえびすこ(一二月二十日)と正月ぐらいしか飲めなかつたので晩酌する人がうらやましかった。山下で売っている酒や焼酎を早飲みし、…中略…酒はコップ一杯十二銭、焼酎は八銭くらい」と回想している。

今回紹介の醸造日記は、当主稔氏の祖父に当たる柳下家二代目直三(蔵)

氏が一七才で情熱をもって酒造を行った貴重な実践の記録である。

第一号の日記では、一二七年前の蔵元の生活がリアルに描かれている。正月元日も午前一時から榷立^{かいたて}を行い、朝六時に洗浄してから朝食、午前中は米や糠^かの引取やムシロの修理、午後は配摺^{まき}りをして、夜は八時から配^{まき}の合わせ仕事、十二時から二つの醪桶^{もろみ}の榷立を終えてから安眠と。また冬季は、醪の温度を保つ為に熱湯を器に出し入れする仕事も加わり計り知れない労苦が伺われる。

第三号の日記は、日に日に変化する醪の状態に真剣に対応しつつ酒造りに励む蔵の人々の姿が記録されている。酒造りに欠かせない杜氏は川上佐一郎で、年俸五十円十慰労金と高額で越後中頸域郡から通年で迎えられ、他に季節契約の雇人が五名で酒造りを行っていた。

造酒用の米は地域の農家（本家・田中・鳥飼・小宮・天野氏等）から購入しており、他に妙典寺や上白子村（現練馬区）の山八水車からのも含め十一月～翌年九月まで二六三俵となっている。

明治二六年度の十二月～一月の清酒石高は、一三二石九斗七升五合であり、六回の配仕込で作られたことが分かる。

前述の、「和光市のむかし第十二集」長泉酒造の項三頁～三七頁の記述と、当資料とを重ねて読んで頂ければ、昔の和光の酒造りの様子が一層明らかになり、更に今後の研究課題も見えてくることを期待したい。

三. 第三号 明治二十六年年度醸造日誌

〈凡例〉漢字は原則として常用漢字を用いた。その他は原文に従ったが原文をそこなわない範囲で、次の点を改めた。

文字の繰り返しは、々（漢字）カタカナの二字以上繰り返しは、「く」で示した。

誤字や当て字などは右側に（ママ）と傍注した。また、抹消部分は――はやへキリトリとし、判読できない文字は□で示した。

史料を読みやすくするため、>で示された日は日に統一し、さらに



で囲んだ。

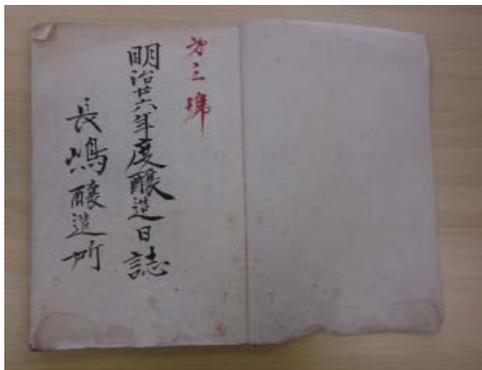


写真4 第三号明治二十六年年度醸造日誌①



写真2 白子小学校で保管されている長嶋醸造関係文書

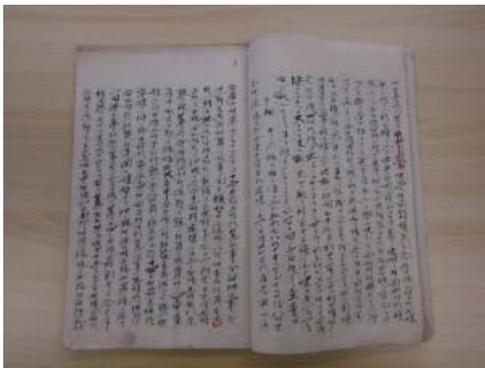


写真5 第三号明治二十六年年度醸造日誌②

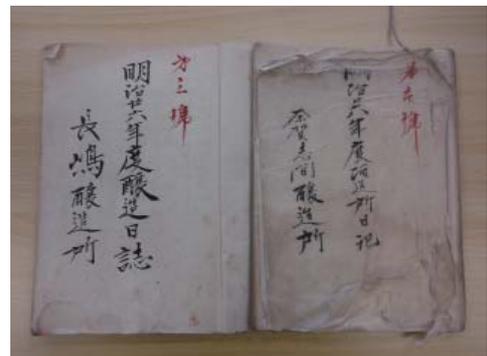


写真3 第一号・第三号明治二十六年年度醸造日誌

一	十二月二十六日	一	四石	留之味	一	参石壹斗	添糶
〃	二十八日	〃	二石	仲糶	〃	参石壹斗	留ノ味
一	六斗	一	参石五斗	留糶	一	参石五斗	添ノ味
〃	三十一日	〃	二十二日	仲糶	〃	参石五斗	留ノ味
一	壹石五斗	一	参石壹斗	添糶	一	参石壹斗	留ノ味
〃	二十七年一月十日	〃	二十三日	留糶	〃	参石壹斗	添ノ味
一	八斗	一	参石五斗	留糶	一	参石五斗	添ノ味
〃	十二日	〃	二十四日	仲糶	〃	参石壹斗	留ノ味
一	五斗	一	参石壹斗	留糶	一	参石壹斗	添ノ味
〃	十三日	〃	二十五日	仲糶	〃	参石壹斗	留ノ味
一	壹石五斗	一	参石五斗	留糶	一	参石五斗	添ノ味
〃	十四日	〃	二十六日	仲糶	〃	参石七斗	留ノ味
一	九斗	一	贰石七斗	留糶	一	贰石七斗	添ノ味
〃	十五日	〃	二十七日	仲糶	〃	参石五斗	留ノ味
一	参石五斗	一	参石五斗	留糶	一	参石五斗	添ノ味
〃	十六日	〃	二十八日	仲糶	〃	参石五斗	留ノ味
一	参石壹斗	一	贰石式斗	留糶	一	贰石式斗	添ノ味
〃	十七日	〃	二十九日	仲糶	〃	参石壹斗	留ノ味
一	参石五斗	一	贰石	留糶	一	贰石式斗	添ノ味
〃	十八日	〃	参石壹斗	留糶	一	参石壹斗	添ノ味
一	参石壹斗	一	参石壹斗	留糶	一	参石壹斗	添ノ味
〃	十九日	〃	参石壹斗	留糶	一	参石壹斗	添ノ味
一	参石五斗	一	参石五斗	留糶	一	参石五斗	添ノ味

計石数 九拾壹石四斗

仕込数 拾石四斗仕舞五本 合計 六本

拾石 仕舞壹本

内 新口造り式本

寒酒造り四本

吸水法 但シ壹本仕込ノ割合

配仕込水八五斗配三個 即チ壹本分ニ対シ壹石七斗五升

添仕込水八壹石(但シ半仕舞□ノ割)

仲仕込水八式石六斗五合

計 六石八斗

仕舞仕込水参石式斗五合

壹本ハ□倍ヲ使用ス

糶使用割合

配 四割 掛二割八分

各号仕込日誌

(2) 酛第壹号仕込

明治二十六年拾壹月三〇日 酛糀六斗ヲ洗フ午後八時五十分入室入 (ムシロ数六枚ノ内四枚ハ

荒息ヲ抜キテ直ニ室ニ入レ跡^ヌ枚ハ湿度八十八九度ニシテ三四回廻リテ室ニ入ル) 直ニ

(全十時床操を)

床ニ伏セムシロ六七枚掛ケ置ク拾二月一日午後八時床返シ全九時五十五分熱騰トヲ

並ニ打室内ニ運送シ半切桶ニ入レ置ク二日午前三時が盛り (蓋五十六枚) 全午前

八時が荒仕事 (熱湯ハ午前七時□出ス) 全十一時が仲仕事全午後三時が仕舞

(ムシロ数六枚)

仕事 (仕事クノ間ニ積替アリ) 全午後七時が出糀下コモナシニ広ゲテ時一攪伴ス

糀ハ少シハゼヲトリ有リ三日時ニ廻ル全午後八時三十分酛ノ味ノコシキヲ出ス (壱石五斗)

三四回廻リテ其儘ニ置ク四日午前一時迄放置シ直ニ半切二十五枚ニ入レ場所ニ階仕

込水壱石七斗五升 (半切壱枚ニ付キゴンブリ一杯ニ杓テ式杯ナル) 汲入糀ヲ入レナラシ

置ク四日午前五時ヨリ手元廻リ五六回ナシ全十時頃ヨリ荒摺リヲナス事昼迄

全昼ヨリ又摺ル夜摺リ上ゲ半切十枚ニ合縮ス時平ガイニテ廻ル五日モ時二平

權ニテ廻ル六日モ然リ七日モ然リ七日夜壺基第四拾号第三拾六号ニ外ニ第

式号ト合併ノ打出ル桶第四拾三号ニ入ル時玉ガイニテ廻ル場所ハ二階南間東

側八日午後三時壺台イムシロニテ壺台巻ヲ卷キ附ケ其上ニムシロ立ニ四枚巻キ

附ケ時々廻ル九日モ然リ十日午前六時暖氣ヲ入ル入レタテ八時ニ廻ラズニ壺人附キヲ十分

間位ニ廻ル同午後四時抜ク跡權立ニテ廻ル少シ甘味ガ出テ来タリ只ツヅラ蓋

丈ケヲ成シ置ク十一日暖氣休ミ時ニ權立ニテ廻ル十二日午前六時暖氣ヲ入ル全

午後四時抜ク少シ膨ミ面ニナリタリ澁少シ含ム時ニ廻ル蓋ハツズラ蓋ニテナス

十三日午前六時頃暖氣ヲ入ル全日ヨリ膨ミ上ガル酸味少シ出テ来ル全午後四時

抜ク仕事全シ十四日午前六時頃暖氣ヲ入ル追々膨ミ上ガル皆ナカニ泡ニナリタリ

フツキリモ出ル十五日、午前六時暖氣ヲ入ル全正午十二時頃壺本抜キ又午後二時頃一本

抜ク皆フツキリニナリタリ香善シ熱光分アリ蓋ハ十四日ノ夜ヨリムシロヲ用ユ少シ

空気ノ流通口ヲ明ケル(十五日)午後六時頃一本配分ケヲナス半切一枚ニ残り壺台

時盛り)添廿一日午前八九時頃上リ居タリ一本ハ少シ急ク全午後八時頃劇音ナス

ニ残シタリ(十六日)午前四時又壺本上ゲル前全ジ特ニ玉ガイニテ廻ル(十七日)渋皮破ラヌ様ニ

(廿二日)泡方出テ来タリ時々廻シ蓋ヲ壺尺程明ケテ置ク(夜食時間)時頃

廻ル渋皮ニナル(十八日)時ニ廻ル(十九・廿日)モ前全

廿三日午後十一時頃仲ノコシキヲ出ス三四回廻リ夜食終リテ直ニ仕込下

拾貳月(十七日)午後九時半添糶ヲ入室ス十八、午後八時床返シ(十九日)午前

桶三尺式本大桶一本仕込水ハコシキノコモヲ切りテ直ニ入ル其前分物ヲナシ糶ヲ

二時盛り全九時荒仕事全十一時半仲仕事(十九日)仲糶壺石洗フ全午後

入ル仕込水(五石二斗)汲ム(廿三日)午前五時半仲仕事全十一時半仕舞

八時仲糶ヲ入ル(廿日)午前一時半床モミヲナス(十九日)午後八時添糶ヲ出スムシロ七枚ニ

仕事全午後六時頃半分室ヨリ出ス種子糶ノハイタ熱ノ有ル故ナリ

明ケテ時々廻ル(廿日)午後九時三十分添ノコシキヲ出ス(全日)午後四時添卸シヲナス三尺桶

全八時残出ス(廿三日)午前九時割權ヲ入ル全午後八時權ツキ以上全体

式本第一号第廿五号へ卸シ)コシキ出テ仕込前ニ仕込水ニ石ヲ入レ糶四枚ヲ入ル仕

ノ糶ヲ八分シ大桶第一号ニ五分下桶三本ニ三分ニ分配ス全十一時三十分

込終ル能ク攪伴シ蓋ヲナシ周リニムシロヲ掛ケ置ク(廿一日)午前九時項割ガイヲ入ル

留ノ糶ヲ投入シ仕込水六石(下桶八杯ツ、大桶四十三杯)七斗ヲ汲ミ昼ニ仕舞ノコシキヲ出ス五石

ムシロヲ取ル蓋壺尺程明ケテ置ク全午後八時權ツキ蓋ハ前通り(廿日)午後八時

四斗三回廻リテ夜食ヲナシテ仕込ム(廿四日)午後二時半頃割ガイヲ入ル全午

三十分床モミ全十二時盛り後ハ不在不詳(廿一日)午後八時三十分出糶ムシロ十枚ニ明ケ

後八時オイツキ午後四時頃ヨリ泡方出テ来タリ(廿五日)午前一時頃一本

(廿日)午前九時仕舞ノ糶ヲ入ル全十一時三十分床モミ(廿一日)午後五時床返シ全八

大桶ニ打ツ高泡ニナッタリスツポン權ヲ衝ク(廿六日)モ然リ廿五日夜ヨリ泡パンヲナス

三十分時間位ニ一杯ニナツタリ下桶毛泡ニナル廿六日午後八時又一本大桶ニ入ル追々

泡方軽クナリタリ廿七日午後八時残り一本口打ヲナス同日午後ヨリフツキリニナル

廿八日正午十一時三十分頃温暖計ニテ検スルニ七拾三四度尤モ廻リテ直ニ見タル

ナリ午後ヨリ追々醪蓋ニナリタリ全日ヨリ冷シガイヲ使フ廿九日追々冷メル

同ジク冷シガイヲツク全日ハ未ダフツキリガ三十玉モ出テ有リタリ卅日モ時々引ガイヲ

ツク底ニ台ニハ居ツカズ追々冷メル時ニ廻ル醪蓋ハ追々消シブツブツ泡ニナリタリ

廿七年一月一日モ時々三十五本ヨリ四十本ノ冷シ權ヲツク二日モ然リ追々冷メル

四三日モ然リ熱ハスツカリ冷メタリ片側十五本位ツツ權ヲツク四日モ前全ジ五日モ然リ

熱ノ冷メルニ從テ醪ズラニナル六日午前一時頃醪検査済石数(石 35石) 全

日午後二時頃ヨリ上ゲ舟ヲナス(酒袋ハ五日午後一時頃水ノ脹リ代検査ト共ニ星ヲ

抜少シ水ノ切レ惠シ)(諸道具洗滌法ハ別帳ニ有リ)笠ニ階荒走りハツポ台ニ

八分ニ取ル入口ハ第十八号細上ゲ槽ノ終ルト清之酒ヲ四尺第七号桶ニ取ル槽

セルタ方バンヲ載ス全八時頃、蓋ヲ入ル全十一時頃掛ケ下ゲ全十二時本掛ケ七日

朝槽直シ全九時三十分本掛ケ壺台荒走り桶朝ヨリ呑切りヲナス全午後

八時ヨリ粕ムキヲナス続ヒテ二度目ノ上ゲ桶ヲナス八日朝迄ニ本掛ケヲナス全午

後五時頃舟直シ直ニ掛ケ下ゲ四尺第七号ヲ切メル粕ハ朝メニ掛ケテ粕桶ニ

入レタ飯終テ本掛ケ全九日午前四時頃ヨリ粕ムキヲナス(共ノ仕込ニテ清酒

十・十一・十二・十三・十四日具儘ニテ十五日呑切ルニ升程少々之レモ

二号ト全ジ十六日十七日十八日十九日モ呑切ル廿一日モ二回呑切ル

廿二日モ呑切ル廿三日廿四日モ呑切ル廿四日午前十時第六号

四尺第七号四尺ニ折引ヲナス廿四日午後折ヲカスリ伊舟打

ニ入ル後第二号□折共ニシボル初載無キ数□記ス

〈穴〉 正午十二時清酒検査ヲ(石数 2159) 入口ハ第十八

号 之三ケ一本造上ラル(九日ヨリ第七号(四尺) 売場ニナス

醪 式拾四石三斗五升四合

清酒式拾壹石五斗九升五合

実粕 1969

切り
張り紙

酏第弐号仕込

明治廿六年拾二月一日午後九時五十分酏糀入ルこしきヲ出スニ三回廻リテ直ニ室入レ

(温度前仕込全ジ位) 種子ハ大手一ツカミ二日午後九時三十分床返シ三日午前三時

(盛り全六時荒仕事三日午前四時頃熱湯ヲ二打程室内半切ニ入ル) 全十時

仲仕事床返シニ熱少シ月ハデ仕舞仕事午後一時半六時ニ出糀仕事前

通り四日午後九時酏ノ味ノコシキヲ出ス例ノ通り水壺石七斗五升ヲ五日午前一時

仕込ム全九時頃迄ニ手元三度廻リテ九時ヨリ荒摺リヲナス十一時又スル全午後

八時頃ヨリ始メ摺リ上げ半切拾貳枚ニ合縮ス時ニ平ガイシテ廻ル七日モ全ジ七日

午後八時壺台第四拾二号第四拾四号第四拾三号壺号□ノ打出ル桶ニ共ニ入ル

場所壺号酏ノ北ニ并列ス時ニ玉ガイニテ廻ル八日午後三時壺台ヲ巻ク

其上ニムシロ立立ニ四枚巻キ附ク時ニ廻ル九日モ然リ十日午前六時暖氣ヲ入レタテハ時ニ

廻ル全午後四時抜ク少シ甘ガ出テ来タリ只ツゞラ蓋丈ケヲナス打出シモ然リ十一日モ全ジ

暖気休ミ時ニ玉權シテ廻ル十二日午前六時暖氣ヲ入ル全午後四時頃抜ク蓋ハツ

ゞラ蓋ニテナス少シ膨ミ面ニナリタリ渋少シ出テ来タリ時々廻ル十三日午前六時

暖氣ヲ入ル全日ヨリ少シ膨ミ上ガル酸味少シ出ル全午後四時頃抜ク仕事全ジ渋モ

強クナル十四日午前六時頃暖氣ヲ入ル追々膨ミ上ガル内壺本ヲクレル皆ガ二泡ト

ナリタリフツキリ出ル全日午後四時頃抜ク全夜ヨリムシロツツラ蓋ニ掛ケ少シ口ヲ

明ケル十五日午前六時頃暖氣ヲ入ル全午前十二時頃壺本抜ク又午後四時壺

本抜ク打出と桶モ抜ク皆フツキリニ成リ芳香強クナリタリ熱ハ充分有リ蓋ハ

ムシロヲツゞラ蓋ノ上ニ掛ケ少シ口ヲ明ケ置ク時ニ廻ル十五日午後十時頃一本上ゲル半

切一枚残り壺台ニ残シ置ク壺台ハコモヲ取り敷台モ取り割槓三本ヲ台ニ

ナス早々冷却スル為メナリ時ニ玉ガイニテ廻ル十六日午前四時又壺本抜ク打出シモ

上ガル皆全ジ時ニ玉ガイニテ廻ル十七日時ニ玉ガイニテ廻ル渋皮ニ成リタリ十八十九日モ

全ジ迄二冷メル廿日午後四時ツボ台式本二寄ヌ時二廻ル廿二日モ時二廻ル一日
八九度位廻ル

拾二月廿一日午後九時頃添糶室入レ床揉ミ前仕込ト全ジ廿二日午後九時頃盛り

仕込前通り全ジ廿三日午後七時頃出糶全日午後三時添御シ三尺式本全七

時頃仕込水式石ヲ汲ミ入レ能ク攪伴シ置ク廿三日午後十一時五十分仲ノ糶ヲ入ル

廿四日午前二時三十分床揉ミ全日午後八時床返シ全十二時三十分頃盛り廿五日午

前四時荒仕事全九時頃仲仕事全十二時仕舞仕事全午後八時出糶廿四日

午後十時半頃仕舞ノ糶ヲ入ル全廿五日午前二時床モミ全午後七時頃床返シ廿五日

午後十一時盛り廿六日午前三時荒仕事全八時仲仕事全十二時仕舞仕事廿三日

午後十時半添ノ糶八斗ヲ入レ直ニ仕込水ニ石汲ミ入レ直ニコシキヲ出シ一回廻リテ仕込ム

蓋ヲナシシロヲ廻リニ掛ケ置ク廿五日午後二時割ガイヲ入レ全八時糶□ツキ廿六日

時々繰り上げ添ハ急ガズ飯ニテ落セシ故ナリ蓋壹尺程明ケテ置ク廿六日

午後八時^添仲ノ味ヲ下桶一本ヲ大桶二入レ跡^ヌ本ヲ下桶式本ニ直シ全十時

糶ヲ入レ仕込水ヲ（五石一斗）汲ミ直ニ仲ノ味ノ甑ヲ出ス三回廻ツテ夜食ヲ

食シテ仕込ム四石廿七日朝割糶ヲ入ル醪ハ通常ナリ少シ添ヨ一ノ泡ガ有

リシ故仲ハ落□シナリ廿六日午後五時頃仕舞ノ糶半分出ヌ全七時頃皆出ヌ

時二廻ル廿七日午後八時頃分物ヲナス下桶四本大桶壹本当分ニナス全十時半頃甑ヲ

出ヌ三回廻ツテ夜食ヲナシ大桶打ゴモリ式本ヲナシ糶ヲ入レ一回廻リテ飯ヲ仕込ム其レ

ヨリ水ヲ仕込ム（五石六斗（八杯ツ）ヲ汲ミ）能ク攪伴ス廿八日午後二時頃割ガイ

ヲ入ル同午後八時頃下桶壹本ヲ大桶ニ打ツ其ノ前ニ糶衝ヲナス全夜ヨリ泡カ

少シ出テ来タリ下桶モ全ジ廿九日午後八時頃又下桶壹本打ツ廿日モ午前ハ

大泡ニ成リタリ下桶モ然リ時々廻ル同夜泡番ヲナス泡ハ二時間ニ桶口頭マデ昇ル

熱ナシ廿一日泡ガ少シ弱ニナツタリ朝九時頃下桶壹本打ツ又泡ガ多

クナリタリ時ニスツポン糶ヲ衝ク廿七年正月一日午前泡ガ消テ来タリ

全日朝残り下桶壺本ヲ口打ス泡ハ少シ出タリ全日午後ヨリ追口少々ナリタリ

(二日)午前泡トフツキリトノ間ニナリタリ夜マデニ皆フツキリニナラズ熱ハ誠ニ少シ(三日)ノ朝

方ニ泡五分位ニテ中ガ少シ高クナリ跡五分ハ渋皮ナリ全日ハ引權ヲ使ハズニ操

リ上ゲ置ク(三日)午後ヨリ醪蓋五分程持ツ熱ナシ(四日)モ会々^マ繰り上ゲ(五日)全ジ

少シ熱付ク口ハ繰り上ゲ置ク(六日)モ然リへ切トリへ例ノ通り繰り上ゲ

(七日)全ジへ切トリへ(八日)ヨリ式本權ニテ廻ル(九日)午前十一時半頃、

醪検査ヲ受ケ(石数 24693) 全午後二時頃ヨリ醪出シヨナス侍桶式本

全八時頃ヨリ上ゲ槽ヨナス(十日)午前一時三十分秤リ入レ全六時掛ケ下ゲ全八時三十分頃

本掛ケヲナス(入口ハ第九号細) 荒走りハ前ノ壺台ニ八分目取ル槽笠三階

(若キ酒ハ入口ニ少シ張り棒ヲカマセ置ク醪ノ若キ故ニ蓋裏ニ露持ッ故ニナス

古シ醪ハ残シテ右様ノ事ハナサトモ善シ) 十日午前十時頃ヨリ醪出シ全夜五時

頃ヨリ二槽目ヲ上ゲル(十一日)正午十二時杆入レ全午後六時掛ケ下ゲ清酒ハ第九号

桶ニ入ル全日午後三時粕ヲ桶ニ入ルメ目掛ケズ荒走りモ引ク全午後八時頃本掛ケ

(十二日)午前式時半槽直シ終ル直ニ掛ケ下ゲ全六時本掛ケ全午後八時粕ムキメ目ニ

掛ケズ(切トリ) (十四日)清酒検査済石数 2157 (十五日)時々吞

切ル(十六日)モ時ニ吞切ル(十七日)然リ(十九日)切ラズ(廿日)廿一日(廿二日)吞切ル(跡

コモヲナシヲ置ク)

(廿三日)廿四日吞切ル(廿五日)朝飯ヨリ吞切リテ折引ヲナス第三号桶ニ引ク続イテ

折ヲカスル(廿六日)夜第一号折ト共ニ壺台ニ袋ヲ下ゲテシボル第三号折引桶コモ

ヲナス一号ノ共桁一駄清酒一樽半程出テタリ卅日午後全上ノ粕ムキヲナス

酏第三号仕込

廿六年十二月十二日午後八時元糴ヲ入室直ニ四枚室ニ入ル跡三枚ハ前仕込位ニ冷

シテ入ル直ニ床モミ十三日午後七時三十分頃床返シ十四日午前零時頃盛り全午前五

時荒仕事全午前十時仲仕事間ニ積替ヲナス午後二時仕舞仕事

全午後七時三十分出糴糴ハ障リナケレドハゼヲトリ有リ全十四日夜ヨリ二階ニ

上ゲル十五日午後九時三十分酏ノ味ノ甑ヲ出ス三回廻リテ放置シ十六日午前二時

二階ニ半切ヲ据エ飯ヲ入レ仕込水ヲ汲ム糴ヲ入レナラシ置ク全朝六時ヨリ

十一時迄手元三回其レヨリ酏摺リヲナス(半切廿五枚仕込水前ニ大同小異)全

午後八時壺台式本ニ合ス第三拾八号四拾九号時ニ玉ガイニテ廻ル十八

十九日一モ全ジ全日コモヲ巻ク時ニ繰リ上ゲ廿三日朝六時頃暖気

ヲ入ル全午後四時抜操作前全ジ似犯サズ廿四日時ニ繰リ上ゲ暖気休ミツゞ

ラ蓋ヲ成シ置ク廿四日モ然リ廿五日午前六時暖気ヲ入ル全午後三時三拾分暖

気ヲ抜ク時々繰リ上ゲ廿五日午前二時ムシロヲ巻ク廿六日午前六時頃暖

気ヲ入ル全午後四時ニ抜ク廿七日午前六時暖気ヲ入ル午後四時抜ク(廿六日ヨリ

少シ膨ラム甘ガ強クナリタリ)廿七日夜充分ニ膨ム廿八日午前六時頃暖気ヲ入ル全日

フツキリニ成リタリ全午後四時頃抜ク時々廻ル廿九日暖気入レズ全午前拾零時一本

分ル又午後二時二又一本分ル半切一枚ニ残リツボ台ニ残スコモムシロヲ取り割横

ヲ台ニナシ置ク時々繰リ上ゲ此酏ハ仲間三本分ニテ打出シ一本アルナリ打出暖気

入ル全午後四時頃抜ク之レモフツキリニナリタリ卅日午前五時頃上ゲル仕事前通り

皆ナフツキリノ大ナルヲ見ル酏ハ充分ノ酏ナリ時々玉ガイテ繰リ上ゲ廿七年一日一モ

全ジ(酏分セシヨリ半日経テフツキリニナリタリ)二日モ同ジ三日午後ヨリ壺台第

□号何本ニ合縮ス時々繰リ上ゲ五六七八九十日モ全ジ十日午後八時四十

分頃添ノ糴ヲ入レ全夜十二時三十分床操ミ十一日午後四時半頃床返シ酏八時二廻ル

全夜十時盛り少シヲクレタリ(十二日)午前五時頃荒仕事全八時仲仕事全

十一時三把全仕舞仕事間々積替アリ(添糶ハ八斗仲壺石仕舞壺石)

酛八時々廻ル十一日午後十時頃熱湯ヲ三埴室ニ入ル十二日朝出ス全午後七時

三把分出糶全九時頃仲糶ヲ入ル全十二時頃床揉ミ(十三日)午後五時半頃床

返シ糶蓋ヲ入ル全午後四時頃添卸ス(坦シ仕舞三掛違仕込) 壺台

壺本ノ酛丈ヶ卸ス添桶三尺一本全午後八時仕込水壺石汲ミ入レ糶二枚

程入ル同午後九時三十分頃酛ヲ出ス(仕舞ノ糶五斗ヲ入ル十四日)午前壺時頃

床揉ミ仲ノ糶八十時頃盛り全(十四日)午前壺時半頃荒仕事五時頃仲仕事

全九時頃仕舞仕事間二積替アリ仲ノ糶午後七時出糶仕舞ノ糶ノ床モミ

一回廻リテ直ニ仕込ム蓋ヲ成シムシロヲ掛ヶ置ク十四日)午後三時割ガイヲ入ル其レヨリ

時々廻ルアマリ急ガズムシロヲ取ル蓋ハスキ無ク成ス(十五日)全午後三時頃

二回目ノ添卸ス三尺壺本十四日)午後六時三十分頃仲及ビ添糶ノ出糶全午後九時

仕舞糶ノ盛り全壺時頃荒仕事全(十五日)朝六時頃仲仕事全九時三十分

仕舞仕事間二積替アリ十四日)午後十時三十分頃糶ヲ入ル全十五日)午前

壺時頃床モミ全四時床返シ全九時盛り十四日)夜二番糶ヲ衝ク全十二時

二十分頃荒仕事全(十六日)午前五時頃仲仕事全九時半頃仕舞仕事

間二積替アリ十五日)午後七時頃仕舞糶ノ出糶十五日)午後八時三十分頃添ノ仕

込水ヲ汲ム糶ヲ二枚積入ル能ク攪伴ス全九時三十分添ノ酛ヲ出ス一回廻リテ

直ニ仕込例ノ通り蓋ヲ成シムシロヲ掛ヶ置ク残り糶ハ其前ニ入ル仲モ添仕込水終ル昼ニ

仲ノ水ヲ二十六杯汲ム続イテ酛ヲ出ス四度廻リテ仕込ム十六日)午前十一時添ノ

割ガイヲ入ル全午後三時添仲ノ擢ツキヲナス十五日)午後九時頃仕舞糶ノ室

入レ全十二時床操ミ十六日)午後四時三十分床返シ(十五日)前ノ仲ハ大桶ニ入レテ(第

拾壺号) 仲ヲ仕込ム) 十六日)前半仕込ノ仕舞ヲ仕込ム四五回廻リテ仕込但シ大

桶ニテ之デ半分キマル全夜八時頃仕舞糶ノ盛り全夜一時荒仕事(十七日)午前

五時頃仲仕事全九時頃仕舞仕事全午後六時頃出糶跡二回目ノ

仲[○]十七日午後九時半頃コシキヲ出ス四回廻リテ他ノ廻リ物ヲナシテ糶ヲ入ル飯

ヲ仕込ム仕込メテヨリ仕込水[○]下桶式本[○]二十三杯ヅ、汲ム[○]十八日午前十時割糶ヲ入ル

午後二時糶ヲツク全午後八時本糶ヲツク大桶ノ方ハスツポン糶ヲツク[○]十八日午

後ヨリ泡ニナル全午後九時四十分頃仕舞ノ甑ヲ出ス三回廻リテ夜食ヲナシ

飯ヲ仕込ム無シヨリ仕込水ヲ汲ム[○](中桶三尺四本糶ハ其前二入レテ能ク攪伴ス)[○]十

九日午前九時半頃割糶ヲ入ル全午後二時三十分糶ツキ全八時本糶ヲツク夕

方四時下桶式本ヲ大桶ニ入ル時々廻ル[○]十八日ニテ壺本キマル[○]十九日泡ガタ方壺尺五寸

程上がりタリ[○]廿日ハ高泡ニナリタリ一時三十分間ニ一杯ニナリタリ時ニスツポンガイ

ヲツク下桶モ全日ハ泡ニナリタリ[○]廿一日日本泡ニナル時二片側廿五本位ヅツ糶ヲ

ツク下桶モ泡ニナリタリ熱ハ六十度内外ナリ[○]廿二日午前五時三十分下桶一本打ツ

泡ハ五六寸程上ガル丈熱ナシ今夕泡ガ力ニ泡ノ様ニ成リタリ[○]廿三日朝五時

口打ヲナス[○]廿四日フツキリニナリタリ熱モ少シ出テ来タリ誠ニ冷湧ナリフツキリモ

少シ小力サナリ中央ハ渋皮ニナリタリ時ニ操り上げ泡ガ無クナリテカラハ操り上げ

置ク廿四日午後ヨリ少シ上等フツキリニナリタリ時ニ操り上げ今日ハ口打シテ

ヨリ少シ熱ガ出テ来タリ醪温度六十五六度位ナリ[○]廿五日朝本フツキリ少シ消テ

来タリ廿五日モ時ニ操り上げ夜見シニ未ダフツキリ三分渋皮七分ニナリ熱誠ニ

僅少ナリ少シ熱附ク時ニ操り上げ廿六日午後ヨリ引糶ヲ使フフツキリ渋

皮消テ少シ醪面ニ成ル[○]廿七日全ジ追々熱ハ冷メル[○]廿八日モ時ニ冷糶ヲ使フ

少シ醪蓋ヲ持ツ全夜ハ渋皮ニナリタリ時々冷シ糶ヲ衝フ[○]廿九日モ全ジ

廿九日モ[○]卅日スツカリ冷メタルニ由リ操り上げ置ク[○]卅一日醪検査済(石数 25098)

二月一日朝五時三十分醪出シヲ成ス全午後粕桶ヨリ袋ヲ出シ全八時上げ舟ヲ

ナスカサ三階入口第九号細ニ入ル荒走りヲ壺台一杯取ル[○]二日午前十時頃

本掛ケヲナス全午後九時舟直シ共ニ醪出シヲナス[○]三日午後三時粕ムキ全四

時上が槽へ切トリ荒走りナル粕ハ前通り粕桶ニ入ル四日ノ朝

六時本掛ケ全日午後二時舟直シ直ニ掛ケ下ゲ全午後八時頃本掛ケ五日午前

四時半頃粕ムキへ切トリ全午後壹時清酒検査済時

ニ呑ヲ切ル七日モ時ニ呑ヲ切ル八日モ全ジ九日モ全ジ大□式升程ツ、切ル十日モ

全ジ十一日モ全ジ全日午後四時頃入口ニコモヲナス時ニ呑切ル十二日十三日モ

全ジ十四日十五日モ呑切ル十六日午前三時折引ヲナス第五十五号ニ引ク直ニ

張り残りナス折八第六号仕込ノ醪ト全併四斗程ナリ

清酒式拾壹石九斗七升壹合

酏第四号仕込

廿六年十二月十三日午前九時酏糶六斗ヲ入ル全十時頃床揉ミ十四日午後

八時床返シ全十二時三十分盛り全五時頃荒仕事全九時三十分頃仲仕事

全壹時三十分頃仕舞仕事都合ニ依リ詳細ヲ得ヌ間ニ積替有リ十五日

午後八時出糶十六日午後九時酏ノ味ノコシキヲ出ス三回廻リテ放置シ十二時三

十分仕込前全ジ十七日朝ヨリ手元三回廻リ全十一時荒摺リ全午後二時全八時本摺リ

半切十枚ニ合縮ス時ニ平摺ニテ廻ル十八日十九日モ然リ廿日モ時ニ廻ル全午後八時

壺台三本ニ合ス第□□第□□第□□時ニ廻ル廿一日モ然リ今日午後コモヲ

巻ク前ノ通り廿二日モ然リ廿三日午後六時頃暖気ヲ入ル全午後四時抜ク

廿四日時ニ權玉ニテ操リ上ゲツヅラ蓋ヲナシ置ク暖気休ミ廿五日午前

六時暖気ヲ入ル全午後四時頃抜ク廿五日午前式時頃ムシロヲ巻ク廿六日午

前六時頃暖気ヲ入ル全午後四時頃抜ク廿七日モ暖気ヲ入ル廿六日少シ膨ミ

ガ来タリ泡モ随分出タリ廿八日朝カニ泡ニナリタリ其レヨリフツキリニ成リタリ全日モ

五時五十分

朝六時頃暖気ヲ入ル全午後四時頃抜ク時二廻ル廿九日午前六時廿分前暖

気ヲ入ル全午後四時頃抜ク廿八日夜ヨリ一本膨ラム廿九日午前一時頃ヨリ一本膨

ラム全日モ暖気ヲ入ル全午後四時頃抜ク全日ノ夜見シニフツキリニナリタリ熱張ル卅日

モ時二廻ル前日ト全ジ暖気ヲ入ル出入時間全ジ卅一日午前六時三十分頃暖気ヲ入ル

全七時三十分頃抜ク時二静ニ操リ上げ全日夕方五時半頃一本酛分ヲ出ス

前通卅一日午後十二時頃残り一本上ゲル之レミナ上ゲ仕舞時ニ玉ガイニテ廻ル

廿七年一月一・二日モ然リ三日モ全ジ全日午後三時頃壺台ニ式本ニ

合縮ス時二操リ上げ四日モ時二操リ上げ五日モ全ジ六七八九十一十二十三十

四日モ全ジ全日午後十時三十分添糶ヲ入ル全壺時頃床揉ミ十五日午後四

時頃床返シ酛八時二廻ル全九時盛り全十二時荒仕事十六日午前五時

仲仕事全九時頃仕舞仕事全午後八時頃出糶十七日午後九時頃添

ヲ仕込十八日午前十時頃割糶ヲ入ル誠ニ具合善シ操作ハ皆ナ全ジ十六日

午後九時三十分頃伸ノ糶ヲ入ル十七日午後四時三十分頃床返シ全夜八時頃

八

盛り十時日午後一時頃荒仕事全四時頃伸仕事全十時頃仕舞仕

事添桶ハ壺本ナリ伸ノ糶十八日午後五時出糶添十八日午後二時三十分糶ツキ

全八時大權ツク十八日二回目添出糶之レハ伸糶ト仕事一諸ナリ十七日午後

九時三十分頃留ノ糶五斗ヲ入レ全十二時床返十八日午後四時頃床返シ全八

時盛り添ハ皆ナ蓋ヲナシ置ク十一時荒仕事十九日午前四時伸仕事全九時仕舞

仕事全午後六時十分頃出糶二階ニ上ゲテ時二廻ル添時モ廻ル全午後八時大桶

第五十五号ニ入ル十八日午後十時三十分伸ノ糶ヲ入ル十九日午後四時床返シ糶蓋ハ

前ノ出糶ノ時ニ入ル全八時二十分盛り十九日午後三時二回目ノ添ヲ卸ス三尺一本全

九時三十分添伸ノ酛ヲ出ス添二回廻リテ直ニ仕込其前直ニ仕込水ヲ壺石汲入レ

糀ヲ入レテ飯ヲ仕込ム跡蓋ヲナシムシロヲ掛ケ置ク(廿日)午前十時頃割糀ヲ入ル

仲ハ添ニ続イテ仕込水式石六斗ヲ汲ミ入レ直ニ甑ヲ出シ三回廻リテ直ニ仕込ム

翌日(廿一日)午前九時割糀ヲ入ル仲ノ糀(十九日)午後十一時三十分荒仕事全四時三十分

仲仕事全九時仕舞仕事間ニ積替アリ(廿日)午後六時出糀前一回ノ留糀ヘ十九日

午後六時出糀十九日午後九時三十分室入レ十二時床揉ミ種子ハ拵ニテ式合程(廿日)

(日)午後六時三十分第貳回留糀ノ床返シ直ニ盛り(廿日)午後三時割糀ツク添ハ全

式時三十分割糀ヲ入ル未ダ上部ニ醪ノ上ガリガ足ラズ然レモ桶底ハ離レテ居タリ

誠ニ勢力弱ナリ全午後八時カイツキ全十一時留糀ノ蓋仕事(廿一日)午前三

時三十分頃仲仕事全八時仕舞仕事全午後六時出糀廿一日少シ醪泡

午後三時

ニナリタリ二回目ノ添(□)弱全大桶ノ糀ツキ全八時又糀ツキ全八時四十分仲

ノ仕込水ヲ汲ム終ル糀ヲ入ル但下桶式本ニ其レヨリ甑ヲ出ス三回廻リテ廻物ヲナシ

夜食ヲナシテ仕込ム終ル桶蓋ヲ片面ニムシロヲ片面ニ掛ケテ置ク(廿二日)午前十

時頃割糀ヲ入ル午後二時三十分糀ヲツク全夜八時又カイヲツク大桶ノ方ハ泡

ニナリタリ時々スツポン糀ヲツク全夜午後九時三十分留ノ甑ヲ出ス(午前八時三十分下

桶式本ヲ四本ニナシ置ク)三四回廻リテ夜食ヲナシ其レヨリ仕込十一時三十分仕込水ヲ

汲ミ入レ能ク攪伴シ置ク翌日糀ハ八時頃入ル(廿三日)午後三時三十分下桶式本

打ツ泡ハ留マリタリ(廿四日)泡ガ出テ来タリ廻リ物ハ片側スツポン糀拾五本位ツツ

廻リ廿四日ニナリテハ泡ハ五六寸程切り上ガラス下桶ハ渋皮ニテ居ル熱ナシ(□)ハ

大桶醪ノ温度六十度位ナリ(廿五日)午後三時三十分下桶式本打ツ大桶ハ

泡五六寸程下桶モ少シ泡ツク(廿六日)朝五時口打ヲナス時タマスツポン糀ヲツク

泡少シ強クナリタリ泡ハ時ニ消ス(廿七日)午後一時桶蓋ヲ三四寸明ケテナス泡

変ジテガニ泡ニナル時ニ操り上げ(廿八日)午後三時三時見ルニカニ泡五分フツキリ五

分温度七十度位ニナリタリ(廿七日夜十一時頃胴巻ヲ二枚ニハカニ着セル)全夜

八時見ルニフツキリニナリタリ時ニ操り上げ全ジク蓋ヲ取りタリ全夜九時頃見ルニ皆

渋皮カニ泡三ヶ所有り測り有リタリ特ニクリ上げ廿九日モ然リ廿日渋皮ニナリタリ時

酏第五号仕込

冷シガイヲ使フ卅一日モ全ジ渋皮ニテ居タリ二月一日チ□冷シ權ヲ使へ切り紙

明治廿六年十二月十四日午後九時酏糀室入レ床揉不詳病氣故十五日

上げ置ク(一日)モ冷シ權ヲ使フ(三日)モ全ジ温度五十度位ニ冷メへ切り紙

午後八時床揉全九時三十分盛り十八日午前四時荒仕事全八時仲仕事全

〈切り紙〉グツ□湧ク五日午後一時醪検査済全二時醪出ル検査□

拾時三十分俵仕事全午後九時酏ノ味ノ酏ヲ出ス全十二時三十分酏仕込仕事

続ヒテ上げ舟ヲナス入口第□号桶ヲサシ三階荒走り壺台壱本ニ取ル終ル

全ジ十八日朝迄手元三廻リ其レヨリ荒摺リ全午後又スル全夜八時本摺リ半切

続イテ醪出シヲナス大桶ヲカスル夜舟セリ全午後八時カサニ階ニテ土蓋ヲ入ル

十枚ニ合縮ス時ニ平權シテ廻ル十九日モ然リ廿日モ全ジ廿一日午後八時壺台ニ

全十一時三十分杆ヲ入レ六日朝五時迄ニ掛ケ下ゲ六時三十分本掛ケ全日午後三時

二本合縮第□第□時ニ廻ル全日コモヲ巻ク時ニ廻ル廿三日午前六時暖氣

舟直シ直ニ掛ケ下ゲ全四時本掛七日前前三時三十分粕ムキ終ル荒走りヲ引ク

ヲ入レ全午後四時抜ク廿四日時ニ權玉シテ廻ルツツラ蓋ヲナシ置ク暖氣休ミ

粕ハ粕桶ニ入ル終ル二回目上げ槽カサ三階ノ之レニテ上げ切ル第五号仕込ノ醪ヲ

廿五日午前六時頃暖氣ヲ入ル全午後三時四十分頃暖氣ヲ抜ク廿五日午

〈切り紙〉全午後一時三十分杆入レ全五時頃掛ケ下ゲ全八時本掛ケ荒走りナシ八日前

前式時頃ムシロヲ巻ク廿六日暖氣ヲ入ル全午後四時頃抜ク廿七日モ暖氣

四時舟直シ直ニハツ掛ケ七時掛ケ下ゲヲナシ全九時本掛ケ九日午前四時頃ヨリ粕ムキ全十一

ヲ入ル全午後四時頃抜ク時ニ廻ル廿八日午前六時頃暖氣ヲ入ル全午後四時頃

時清酒検査済石21940時ニ呑ヲ切ル十日モ全ジ十一日モ全ジ全午後四時頃コモヲ

ナス二十三日モ時ニ呑切ル十四日十五日モ呑切ル(十三日)コモヲナス(十六日)午前四時頃

折引ヲナス第壹号桶ニ引ク終ル直ニ折リヲカスリ第六号醪ニ合併四

斗程折引キ桶八直ニ目張りヲナス

壺本膨らム甘ガ出テ来タリ廿九日モ例ノ通り暖気ヲ入ル全午後四時頃抜ク全日夜

三十分荒仕事全四時三十分仲仕事全十時仕舞仕事其間二積替アリ

見ルノニ少シオニ泡ニナリタリ卅日モ暖気ヲ入ル時二廻ル卅一日午前六時頃暖気入ル全午前

全午後五時三十分出糶廿日糶ニハ少シ月ハゼ有香モ少シオビ香有アリ廿一日夜

七時二十分頃ヨリフツキリニナリタリ一本モフツキリニナリ朝暖気入ル全午後四時頃

九時三十分頃仕舞糶ノ室入レ全十一時三十分床揉ミ種子壺合五勺程ヲ

抜ク皆ヨリ少シフクレタリ卅一日午後七時三十分壺本上ゲル全日残り壺本フツキリ

使フ卅二日午後五時三十分床返シ全八時盛り一回目ノ留ノ糶ト第二回目ノ添糶ハ

ニナル廿七年正月一日午後十時頃壺本上ゲル仕事ハ前通り二日モ時ニ操リ上ゲ

仕事全シ全八時出糶残り酩八時二廻ル廿二日午後九時三十分留糶ヲ入ル全十一時

三日午後三時頃壺台□号□本ニ合縮ス時ニ操リ上ゲ四五六七八

三十分床揉ミ種子ハ壺合五勺程廿三日午後五時床返シ全八時四拾五分

九十一十二三十四五十六七十八十九廿日モ合シ

盛り廿一日夜九時三十分一回仲ノ糶ヲ入レシム全十一時三十分床操廿二日午後五時

廿七年正月十八日午後九時三十分添ノ糶ヲ入ル第四号仕込二回目仲ノ糶ト仕事

三十分床返シ全八時三十分盛り全十二時荒仕事全四時三十分仲仕事全九

ハ合シ廿日午後八時出糶全八時五十分仲ノ糶ノ甑ヲ出ス全十一時頃床モミ廿一日午

時三十分仕舞仕事間ニ積替アリ廿三日午後六時出糶廿三日午後三時第二

後四時三十分床返シ全八時盛り廿一日午後三時一本丈ケ添ヲ御ス三尺壺本残り

回目ノ添ヲ卸ス全八時仕込水ヲ汲ム其レヨリ直ニ糶ヲ入レ攪伴シ置ク全九時

跡ハ時二廻ル全夜九時三十分甑ヲ出ス(其前二仕込水ヲ汲ミ入レ糶ヲ入ル)二回

三十分添ヲ仕込ム□ヲ一回廻リ荒息ヲ抜キテ直ニ仕込ム直ニ桶蓋ヲナシムシロニテ

程廻リテ仕込能ク攪伴シテ蓋ヲナシ廻リニムシロヲ掛ケ置ク仲糶廿一日午後十一時

包ミ繩ニテ縊リ置ク廿四日午前十時頃迄ニ醪上ゲル廿三日午後十時第一回目

ノ仲ノ甑ヲ出ス三回廻リテ直ニ仕込ム（仕込水ハ添水廿三日午後八時^八時汲ム仲水全八時

五拾分ニ汲ミ入ル糶ヲ入レ能ク攪伴シ置ク）仲ハ大桶第壹号ニテ仕込ム廿二日

午後九時三十分仲ノ糶ヲ入ル全十二時盛り廿三日午後六時床返シ全八時三十分盛り

全十二時荒仕事廿四日午前五時三十分仲仕事全十一時仕舞仕事廿三日午

後九時三十分留ノ糶ヲ入ル全十二時床揉ミ廿四日午後五時床揉ミ全八時

盛り全ジ五時留ノ出糶廿四日午後九時四拾分留ノ甑ヲ出ス二回廻リテ大急ギニ

仕込テ水ヲ汲ミ入ル甑ハ少シ熱有リタリ糶ハメシ前ニ入ル廿五日午後二時時權ヲ

ツク全八時カイツキ少シ泡ツク但シ大桶ナリ添モ全ジク廿五日留ト全様權ヲツク

廿五日午後八時三十分添ヲ入レテ仕込水ヲ汲ミ石数未記入仲桶式本糶ヲ皆ナ入ル

全九時式拾分甑ヲ出ス三回程廻リテ直ニ仕込蓋壹枚ニムシロ一枚掛ケ置ク廿六日

朝皆上ガル全十時三十分割權ヲ入ル誠ニ好具合ニ静ナリ廿五日午後五時三十分留

ノ糶ヲ出ス廿八日大桶泡ニナル二三廿全日午後九時三十分留ノ味ノ甑ヲ出ス三回廻リテ

直ニ仕込其前ニ下桶式本ヲ四本ニ直ス仕込テヨリ仕込水ヲ汲ミ糶ヲ其前ニ入ル

能ク攪伴シ置ク廿七日正午大桶ハ一尺程泡方上ガル全午前九時割權ヲ入ル

全午後式時權ツキ全三時下桶式本ヲ大桶ニ打ツ下桶モ下ニハムシロヲ掛ケ置ク全

八時權ツキ少シ廿八日大桶ハ泡壹培ニナル時ニスツポン權ヲツク下桶五寸程位

泡上ガル少シ急グ時タスツポン權ヲツク廿九日モ全ジ廿日午前六時下桶一本打ツ泡ハ

七八寸程上ガル時ニスツポン權ヲ使ウ下桶モ泡四五寸上ガル廿一日朝五時頃口打

ヲナス之レハ不詳[?]不出故全日オニ泡ニナツタリ時ニ操リ上ゲ二月一日ハフツ切りニナ
ル時ニ操

リ上ゲ置ク熱ク具合午前仕込ト大同小異ナリ少シ抜ク二日所々ニカニ泡有リ

渋皮ニナル冷シ權シテ廻ル二日皆渋皮ニナリタリ冷シ權ヲ使ウ熱ハ五六度下ガル

四日渋皮ニナリタリ時ニ冷シ權ヲ使ウフツ湧ク五日モ然リ時ニ冷シ權ヲ

使ウ温度五十度位ニ冷メタリ氣候位ニ冷メル六日フツ冷湧ヲナス時ニ冷

權ヲ使ウ七日ズント冷メル時ニ冷シ權ヲ入（切トリ）

八日時二廻ル少シ醪面ニナリタリ午後三挺取ルスツカリ冷メル九日午前十一時醪

酏第六号仕込

検査済石数全午後二時ヨリ石 24 □ 32 醪出シ続イテ上げ槽終ル跡

明治廿六年拾二月廿八日午後九時三十分酏ノ甑ヲ出ス全夜一時床揉ミ廿九日

醪出シ大桶ヲカスルカサ三階待桶式本全八時ド蓋ヲ入ルへ切トリ

午後十一時三十分床返シ廿日午前六時盛り全午前八時荒仕事全十一時三

へ切トリ朝飯前掛ケ下ゲ朝メシ終ル半掛ケ午後三時ヨリ

十分伸仕事全午後二時三十分仕舞仕事間二積替アリ全夜十一時三十分

槽直シ直ニ掛ケ下ゲ全七時本掛ケ荒走り時ニ呑切ル入口ハ第十八号□壺石細十一日

出糴時二廻ル廿一日午後~~二~~一時二拾分前酏ノ味ノ甑ヲ出ス三回廻リテ夜食ヲナシ

午前三時三十分粕ムキヲナス続ヒテ上げ槽ヲナス侍桶ハ外出ス全日午後二時三十分杆

打ゴモリ式本ナシ全十二時三十分仕込仕事例ノ通り廿七年一月一日朝手元

入レ全八時掛ケ下ゲ入口満チタルニ由リ四尺第七号ニ清酒ヲ入ル杆入レ石四マデ仲ヲ見テ

二廻り全午後ヨリ酏摺リ午後八時又摺ル十時三十分全方終ル此酏摺リ

直ス大流シハカサ二階ニテ取り仕舞ニ又取ル荒走りナシ全十時三十分本掛ケ

水ヲ少シ加ヒテ追廻リヲナス半切十枚ニ合縮ス時ニ平權ニテ廻ル二日三日モ全シ

十二日午前九時頃槽直ニ全午後二時三十分本掛ケ十三日午前三十分ヨリ

四日午後八時壺台ニ合ス壺台巻キヲ巻キ附ケムシロヲ巻キ附ケ時二廻ル

粕ムキ之レニテ上げ切ル十四日午前十一時頃清酒検査済石数 21869 時ニ呑切

五日モ六・七八日モ全シ全午前六時三十分暖氣ヲ入ル全午後四時抜ク九日

ル十四日十五日モ呑切ル直ニコモヲナス十六日午前五時三十分折引ヲナス終ル直ニ折

暖気休ミツヅラ蓋ヲナシ時二廻り全日検査モ有り十日午前六時暖氣ヲ入ル

ヲ五挺程オスリ第四号醪ニ合併掛打桶ハ第四石細ニ引ク直ニ目張ナシ

置ク番ヲ三ツ程載セ置ク廿四日前四時頃ヨリ第拾貳号桶ニ貳番折

ヲ引クコミハリ下ゲヲナシ置ク

暖気ノ入レ有ル内蓋ハ反リ置ク少シ甘味ガ出テ来タリ(十一)日午前六時三十分暖気

入ル全午後四時三十分暖気抜ク甘ガ出テ来タリ(十二)日午前六時三十分暖気入ル全

午後四時抜ク(十三)日午前六時十五分暖気入ル全午後四時二十分抜ク全日ヨリ

少シプツ<<<ト玉ガ出テ来タリ甘ガ充分張リテ来タリ(十四)日午前六時暖気

ヲ入ル全午後四時抜ク(十五)日モ暖気入ル壺本膨ラミシ方酸味出テ来タリ

泡ニナリテ膨ラミ来タリ一本ハ甘ガ八九分出テ来タリ(十五)日モ朝六時二十分暖気

入ル全午後四時二十分抜ク(十六)日午前六時十五分暖気入ル全午後四時抜ク跡ノハ壺杯

ニ膨ラム時ニ廻ル一本酸味ガ出テ来タリ(十七)日モ暖気入ルカニ泡ナリ全十一時頃暖気

壺本抜ク全夜八時上ゲル(十八)日モ暖気入ル全四時壺本抜ク十九日午前六時残り壺本

上ゲル誠ニ熱ガ張ル故時々廻ル残り壺本古カツタリ酏分スル時ニハ渋皮ニフツキリハ

半分位ナリ(十九)日フツキリガ出ル前二分ケタル(十八)日フツキリガ出ル先ツ酏ハ普通ノ酏

ナリ酸辛ノニ味ガ多分ナリテヨリハ玉ガニテツブ<<<渋皮ヲ破ラザラヌ様ニ廻ル(廿)日モ

(廿)日全ジ廿一日(廿二)日全ジ

(廿二)日午後九時三十分添靴室入レ全十二時床採(廿三日)午後五時三十分床返シ全

八時四十分盛り全十二時荒仕事(廿四)日午前五時廿分仲仕事全十一時仕

五時

舞仕事間ニ積替アリ全午後出靴(廿五日)全五時時ニ攪伴シ置ク(廿五日)

午後三時添卸シ全八時三十分ヨリ仕込水ヲ汲ム糶ヲ入レ添イ揉ヲナス全九時廿分添

ノ酏ヲ出ス二度大急ギニ廻リテ仕込メシハ少シ掛ケタリ(廿六)日午前ノ内上ガル全午後二

時割權ヲ入ル添ハ添巻ヲ着セムシロヲ廻リニ掛ケテ置ク(廿四)日午後九時三十分添

糶

仲ノ酏ヲ出ヌ例ノ通り室入レ全十二時床採(廿五日)午後五時三十分床返シ全八時盛り

廿六日午前

全八時盛り

全十二時荒仕事全五時仲仕事全十時仕舞仕事間ニ積替アリ荒仕事ヨリ糶

蓋ノ積様ハ×ニナス蓋ハ一重段ニ二枚(廿五日)留糶ヲ入ル全十二時床採(廿六)日

午後五時三十分床返シ全八時盛り添仲ノ糶ハ添ハ八時二出靴仲六時ノ出靴留糶十

(廿七日)午前

二時荒仕事全五時仲仕事全九時三十分仕舞仕事間ニ積替有リ全午後五時

三十分出糶廿六日午後九時三十分仲ノ糶ヲ入ル全十二時床揉ミ廿七日午後九時三十分盛り

廿七日午後三時三十分二回目ノ添ヲ卸ス全八時仕込水ヲ汲ミ糶二枚直ニ入ル

第壹回目ノ仲ヲ全八時ニ大桶ニ入ル大桶十二号第壹回目ノ添ハ廿七日ニ少シ泡

ガ五寸程下桶ニ上ガリ居タリ仲ノ糶ハ廿八日午後六時四十分頃出糶廿七日午後

十時添仲ノコシキヲ出ス添ハ荒息ヲ抜ク直ニ六七枚仕込跡ニ廻リテ仕込メシハ

掛ケタルナリ直ニ蓋ヲスルムシロニテ包ム只掛ケ放シ廿八日午後二時割糶ヲ入ル全八

時糶ツキ仲ハ三廻リテ直ニ仕込テ仕込水ヲ汲ミ入レ糶ハメシノ前ニ入ル能ク攪伴ス廿

八日午前十一時三十分割ガイヲ入ル全午後二時抜糶ヲツク全八時又糶ツキ蓋丈ケ

ナシ置ク静ナリ留糶ハ廿七日午後九時三十分室入レ全十一時三十分床揉ミ廿八日午後五

時床返シ仲ノ糶ハ午前壹時三十分全六時仲仕事全十時三十分糶仕舞仕事

間ニ積替アリ廿八日午後十時留糶ハ盛り全壹時三十分荒仕事全五時三十分仲

仕事全九時三十分方仕舞仕事廿九日午後六時出糶廿八日午後十時留ノコシキ

ヲ出ス三廻廻リ夜食廻リ物ヲナシテ仕込直ニ仕込水ヲ汲ミ廿九日朝五時見ルニ皆ナ

上部ニメシガ上ガリタリ全午前十時割糶ヲ入ル糶ツキ午後二時ニ八時全午後九時三十分

仲ノコシキヲ出ス三四回廻リテ廻リ物ヲナシテ仕込ム糶ハ其前ニ入ル仲桶式本メと仕

込テヨリ

仕込水ヲ汲ミ入レ十三杯ツツ卅日午前十一時割糶ヲ入ル具全上等大桶ハ二

三寸程泡ニナリタリ時ニスツポン糶ヲツク仲ハ卅日午後抜糶ヲ使フ全八時カイ

ツキ大桶ハ水泡ナリ卅日午後十時頃仕舞ノコシキヲ出ス下桶四本仕込テヨリ仕込

水ヲ汲ミ入レ能ク攪伴シ置ク卅一日午前十一時割糶ヲ入ル全午後二時抜糶ヲ

ツク全午後八時二番糶ヲツク二月一日午前五時三十分下桶式本大桶ニ打ツ大桶泡

四五寸程上ガリ時ニスツポン糶ヲツク二日モ時ニスツポン糶ヲ使フ泡四五寸程三日午

前六時下桶式本打ツ泡口頭一杯ニナリタリ時二廻ル四日午前五時迄へ四寸程泡有リ

少シ泡減シテ来タリ全九時頃口打ヲナス口頭七八寸ノ間三十分時間ニ一杯二格

別泡ハ濃クナリタリ時ニスツポン糶ヲツク全日ヨリ夜ハ泡番ヲナス五日朝ヨリ泡

番無シカニ泡ニナリタリ時ニスツポンガイヲ使ウ熱七十五六度追々泡減ジテ来タリ

日午前六時掛下ゲ全九時本掛ケヲナス是ノ醪ハ侍桶ニ入レテ渋皮壹寸程脹

六日夕方廻リ見ルノニカニ泡ニ寸五分程上がり居タリ熱ハ六十度見當時ニスツポン權

リ居タル故上ゲ槽ノ誠ニ困難ニテ有リタリ十五日午後八時三十分槽直シ十六日午

シテ廻ル七日午後八時見ルノニフツキリ上等出シ居タリ時ニ繰リ上ゲル熱減少シ六

前四時粕ムキ続イテ残リノ醪ヲ上ゲ袋有リ丈ケ午後六時榘入レ全十二時掛ケ

十七八度位八日午後五時廻リ見ルノニフツキリ九分渋皮一分位ナリ廻リテ直ニ二十分程

下ゲ清酒ハ第十五号ニ入レ切レザル故第十八号細ニ入ル荒走りナシ十八日午前貳時本

徑テ見ルノニ渋皮一寸五分位上がり居タリ時ニ廻ル熱度ハ二三度減シテ来タリ九日

掛ケ全九時三十分槽直シ全午後二時本掛ケ十九日午前三時粕ムキ之ニテ終ル

午後

午前九時見ルノニ渋皮四分フツキリ六分位有リ全八時頃見ルニ渋皮七分フツキリ三分

粕ハ皆一緒ニ成シコモデ蓋ヲナシ桶蓋ヲナス清酒ハ時ニ呑切ル廿一日廿二日モ時々呑切

位ナリ熱度五十五度位ナリ十日ハ渋皮ニナリタリ少シフツキリ有リ時ニ繰リ上ゲ置ク熱

廿三日廿四日廿五日廿六日廿七日廿八日モ全シ三月一日モ全シ一日六七〇ツツ呑切ル二日午前四時三十分ヨリ

度五十度位十一日夜見ルニスツカリ渋皮ニナリタリ熱ハ追々減ス渋皮七八分位厚

折リ引ヲナス第拾七号入口ニ引ク全九時折ヲカスル折引桶ハコモバンヲナシ置

サ有リ時々操リ十分バカリクリ上ゲ十二日渋皮熱誠ニ無シ時ニ廻ル十三日モ然リ

ク折ハ四斗程有リ各壺台ニ入ル時ニ呑切リタリ第四号桶ニ三月二日壹式番折リ引ク折

渋皮少シ減ジル時々冷シ權ヲ使ウ十三日午前壹時へ切トリ十四日午前十時

ハ少シ有リタルノミ

醪検査済続イテ上ゲ槽ヲナスカサ三階袋皆ナ上ゲル終ル残リノ醪出シ跡

醪石数貳拾四石六斗九升三合

清酒石貳拾三石〇四升三合

カスル午後ヨリ仕込桶ヲ外出ス入口桶第十号十九号細全午後十二時杆入レ十五

廿七年二月廿三日検査済

配仕込 番号	掛仕込 番号	添仕込 月 日	白米 総石数	汲水 総石高	一甞ニ対スル 白米石高	検査済 清酒石高	検査済 醪石高	粕 目方	白米一石ニ対 スル醪歩合	醪一石ニ対ス ル清酒歩合	白米一石ニ対 スル粕歩合
1	壹	明治・月・日 26.12.20	石・斗・升 15.10.0	石・斗・升 15.10.0	石・斗・升 2.10.0	石・斗・升・合 21.5.9.5	石・斗・升 24.3.5.4	㍻百十目 128600	斗・升・合 612強	斗・升・合 886強	㍻百十目 8520弱
2	貳	26.12.24	15.10.0	15.10.0	2.10.0	21.5.5.7	24.6.9.3	129300	635強	873強	8560強
3	参	27.1.13	15.10.0	15.10.0	2.10.0	21.9.7.1	25.0.9.8	129500	662弱	876弱	8580弱
4	四	27.1.17	15.10.0	15.10.0	2.10.0	21.9.4.0	24.8.7.0	130800	647強	882強	8670弱
5	五	27.1.21	15.10.0	15.10.0	2.10.0	21.8.6.9	24.5.3.2	129300	625弱	891強	8570弱
6	六	27.1.25	15.10.0	15.10.0	2.10.0	23.0.4.3	24.6.9.3	129000	635強	933強	8540強
6	6	自26.12.20~ 至27.1.25	★90.60.0	90.60.0	12.60.0	★131.9.7.5	148.2.4.0	776500	平均636	890強	8570強

之レ表中皆ナ検査簿中ヨリ抄出 仕込詳細ハ仕込帳ニ有リ

表1 (3) 明治廿六年度造酒一覽表 (明治26年度醸造日誌の表を元に作表)

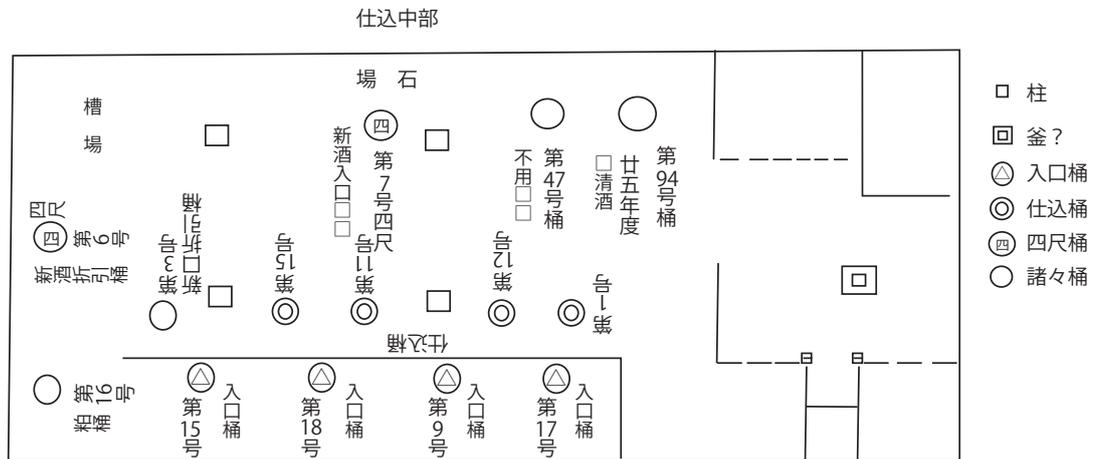


図1 仕込中桶据及ビ諸器械製置法夏桶諸器械据置ノ事
(明治26年度醸造日誌の(5)桶遣法及び火入夏守ノ部より作図)

新古 区別	種目	積下月日	掲立月日	玄米石高	白米石高	糠之数	玄米嶋耗歩 合	白石4石ニ対 スル糠歩合	引取日	搦人姓名
新米	近江 320小ナラノ	年・月・日 26.1.27	年・月・日 26.2.27-28	石・斗・升 6.0.0	石・斗・升 5.8.0	石・斗・升 十㍻目 2.0.0	割・歩・厘 3.3強	割・歩・厘 1.3.3	年・月・日 26.12.2	散人 鉄五郎
新米	近江	26.12.8	26.12.10-11	4.0.0	3.9.4	十九㍻七百目	1.5	1.0.0	26.12.13	全人
新米	雑種	26.12.8	26.12.10-11	4.0.0	4.0.0	2.0.0	0	1.0.0		
新米	雑種	26.12.13	26.12.18-19	8.0.0	7.6.2	2.0.0	5.3弱	1.0.0	26.12.19	全人
新米	近江	26.12.15	26.12.16-17	1.6.0	1.5.8	五㍻七百 3.0	1.3弱	1.2.5	26.12.20	全人
新米	雑種	自26.12.19 至27.1.30	全上	7.5.5	7.3.4	貳百又貳百目 不詳	2.7弱	1.0.0	26.12.20 27.3.15	鉄五郎
新米	雑種									
一種	三種	自26.2.27 至27.1.30	自26.2.28 至27.1.30	99.1.30	96.3.9	㍻百目 2593	平均235	四百ニ付拾㍻七 百六十目当?	自26.1.15 至27.3.5	貳人

表2 (4) 明治廿六年度造酒元料掲立概算表 (明治26年度醸造日誌第壹号より作表)

四. 白子小学校に寄贈された資料



写真9 名入の徳利・おちょこ等



写真6 長嶋酒造所酒蔵とレンガ煙突



写真10 日本醸造協会誌一部
(大正7年版～昭和5年版)



写真7 長嶋酒造所のラベル



写真11 陶器製2斗樽



写真8 煙突レンガ

五. まとめ

今回この様な地域の酒造り資料が発掘できたのは、何よりも蔵のご当主である柳下稔氏の文化財に対する深い造詣と、地域・学校への信頼に依拠した寄贈によるものに他ならず、紹介して下さった吉田武司氏お二人に衷心よりお礼を申し上げます。

明治期の古文書は、カナ混じり文で江戸期の地方文書より読み取りは容易と安易に考えていたが、旧字体や酒造りの知識のない私にとってはあまりにも難解で、文中不明解な文言や□が多くなったことをお許し願いたい。特に酒造りの専門用語や明治期の言葉遣いなどに誤りがあると思われる。

また、今回公表に至らなかった残りの章や明治二四年、二五年期の醸造日誌等についても今後読解、公表しなくてはと考えている。郷土の歴史や酒造関係の発掘調査に堪能な方のご助力を切に願うものである。

本稿をまとめるに当たり、白子小学校並びに和光市教育委員会に感謝するとともに、ご協力頂いた安井翠氏、木下希美氏に厚くお礼を申し上げます。

【参考文献】

坂下公民館 一九八一 『坂下の歴史』資料 明治、大正期の坂下を語る座談会のまとめ』

坂下公民館協力委員会

新潟県教育委員会 一九七八 『越後の杜氏と酒男』 無形の民俗文化財記録第三集 新

潟県教育委員会

吉田元 二〇一三 『近代日本の酒づくり 美酒探求の技術史』岩波書店

和光市教育委員会 二〇〇四 『和光市建造物 長泉酒蔵・長屋門・代官屋敷調査報告書』

和光市のむかし第十二集 和光市教育委員会

執筆者紹介

中岡 貴裕 (和光市)
石川 敬史 (十文字学園女子大学)
安井 翠 (和光市教育委員会)
江口 やよい (和光市教育委員会)
矢崎 康彦 (和光市文化財保護委員会委員)

ISSN 2189-3276

和光市デジタルミュージアム紀要 第6号

発行日 令和2(2020)年3月27日発行

編集・発行 和光市教育委員会(担当:生涯学習課)

〒351-0192 埼玉県和光市広沢1-5

TEL 048-464-1111(代表)

和光市デジタルミュージアムれきたまURL

<http://rekitama-wako.jp>



れきたま
QRコード